

令和8年度第1回津地域高等学校活性化推進協議会
配 付 資 料

○令和 8 年度 津地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿	P 1
○津地域高等学校活性化推進協議会設置要綱	P 2
○【資料 1】令和 7 年度第 2 回津地域高等学校活性化推進協議会の概要	P 3
○【資料 2】津地域の高等学校の学科・コースについて（令和 9 年度）	P 5
○【資料 3】津地域の県立高等学校の特色（各学校より）	P 13
○【資料 4】津地域の県立高等学校（全日制）への交通手段等	P 22
○【資料 5】津地域の県立高等学校卒業生（全日制）の進路状況	P 25
○【資料 6】津地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況	P 27
○【資料 7】津地域の中学校卒業生進路先の推移	P 29
○【資料 8】令和 8 年度の協議について	P 31
○【資料 9】	
①（概要）地域の中学生・保護者を対象としたアンケートの調査の実施について	P 32
②（生徒用）高校や将来に関するアンケート「質問用紙」	P 33
③（保護者説明）「津地域の県立高校に関するアンケート」について	P 35
④（保護者用）津地域の県立高校に関するアンケート「質問用紙」	P 37
○【資料 10】津地域の中学校卒業生数の推移と予測（含社会増減）	P 39
○【資料 11】津地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員（全日制）の推移	P 40
○【資料 12】令和 23 年度までの津地域の 県立高等学校（全日制）の総学級数について	P 41
○【資料 13】学校規模と教育環境について	P 42
○【資料 14】津地域の県立高等学校における学びと配置のあり方についての協議	P 44
○【別冊資料】令和 7 年度 3 地域の活性化協議会まとめ（一部抜粋）	

令和 8 年度 津地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿

No.		所 属 及 び 名 前	新・継
1	学識経験者	三重大学 教育学部 教授 大日方 真史	継続
2	地域有識者	津商工会議所 理事 宮田 雅司	新
3		津市商工会 事務局長 家城 吉孝	継続
4		津市自治会連合会 副会長 浦出 寛治	新
5	市町教育委員会教育長	津市教育委員会 教育長 伊藤 雅子	新
6	県立高等学校長代表	三重県立津西高等学校 校長 岡田 恭子	新
7	小中学校長代表	津市立美杉中学校 校長 竹尾 到	新
8	小中学校 P T A 代表	津市 P T A 連合会 会長 (津市立一志中学校 P T A)	継続
9	高等学校 P T A 代表	三重県高等学校 P T A 連合会 副会長 (津商業高等学校 P T A 会長)	新
10	小中学校教職員代表	津市立南郊中学校 教諭 川田 俊	新
11	高等学校教職員代表	三重県立津東高等学校 教諭 松田 泰知	継続

津地域高等学校活性化推進協議会設置要綱

(設 置)

第1条 少子化などの社会の変化が著しい中、津地域における高等学校の特色化、魅力化を図るとともに、生徒にとって魅力ある学習環境を整備するため、津地域高等学校活性化推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について具体的に検討し、協議する。

- (1) 今後の津地域全体における県立高等学校の在り方に関すること
- (2) 津地域の県立高等学校活性化の方策に関すること
- (3) 施設・設備に関すること
- (4) その他検討を要すること

(組 織)

第3条 協議会は、学識経験者、地域有識者、小中学校PTA関係者、高等学校PTA関係者、関係市町教育委員会教育長、小中学校長代表、県立学校長代表、教職員代表等で組織する。

- 2 協議会に、会長、副会長を置く。
- 3 会長及び副会長は、委員の中から互選により決める。
- 4 会長は会務を総理し、副会長は会長を補佐し会長に事故ある時は職務を代行する。
- 5 協議会は、必要に応じて関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(調査委員会)

第4条 協議会のもとに、必要に応じて調査委員会を設置する。

- 2 調査委員会は、テーマに応じて会長の指名する関係者で構成する。

(会 議)

第5条 協議会は、会長が招集し、会長が議事運営する。

- 2 協議会の庶務は県教育委員会事務局において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関する事項は会長が定める。

附 則

この要綱は令和5年12月1日から施行する。

令和 7 年度第 2 回津地域高等学校活性化推進協議会の概要

- 1 日時 令和 8 年 2 月 2 7 日（金） 1 9 時 0 0 分から 2 1 時 0 0 分まで
- 2 場所 三重県吉田山会館 第 2 0 6 会議室
- 3 概要

当協議会の設置要綱に基づいて、県立高校における「地域と連携した学び」の関係者の出席を求め、取組や現状等について報告を受けました。その上で、当地域の中学校卒業者の減少の状況をふまえ、以下の 2 点について協議しました。

- ① これからの津地域の県立高校の学びと配置のあり方を考える上で、大切にしたいことについて
- ② 地域の中学生や保護者を対象としたアンケートにおける質問内容や実施方法等について

主な意見は次のとおりです。

（地域と連携した学びについて）

- 白山高校の地域と連携した取組は、一朝一夕にできるものではない。これからも地元とのつながりを大切にしてほしい。（佐藤委員）
- 2 校の報告を聞いて、「地域」の捉え方が学校によって大きく異なることが分かった。当協議会で「地域と連携した学び」について論じる際には、その「地域」が指すところを明確にしておく必要があるのではないか。（木原委員）

（学校の配置について）

- 学校規模も大切だが、多様な子どもたち全員が輝くためには、さまざまな特色を持った高校があるべきだという視点で議論を進めてほしい。また、沿岸部や山間部といった地域性のバランスも考慮する必要がある。（森委員）
- 白山高校を残すのであれば「立地を生かした林業に関する学び」など特色を持たせてはどうか。また、当地域には普通科が多いとのことだが、進学ニーズに応える高校だけでなく、就職に特化した普通科があってもよいのではないか。（家城委員）
- 高校生が小中学校で探究学習の発表や交流を行うことにより、小中学生が地域の魅力や探究学習のよさを知る機会になるとともに、各高校の特色を知ることによって進路選択にもよい影響を及ぼしている。今後も小中高のつながりは大切にしていきたい。（大藪委員）
- 中学生が入学したいと思える魅力ある高校をつくるためにも、普通科と専門学科の併置も含め、農業・工業・商業などの学びをバランスよく配置し、中学校卒業後の進路の選択肢を増やしていく必要がある。（松田委員）

（今後の協議の進め方について）

- 産業構造が変化する中であっても、農業・工業・商業などの専門学科は今後に残していく必要がある。今求められているのは、「高校生の7割が在籍する普通科を、探究や地域連携などを含め、今後どうしていくのか」であり、当協議会でも議論の中心に据えるべきである。（森委員）
- 生徒減に対して、単なる学級減で対応するのではなく、地域で活躍する人材を育成するために専門学科の改編や総合学科の設置などの工夫を検討すべきである。また、県外に進学した生徒が地域に戻って活躍できるような地域づくりや学校づくりも大切である。（塚澤委員）
- 各学校における地域と連携した学びの実践報告を聞く中で、各学校において「地域」をどのように捉え、どのように学びに生かしていくのかについて、次回以降もさらに議論を深めていく必要があると感じている。（大日方会長）

（アンケート調査について）

- 通学時間については、「理想とする学校」をどのように捉えるかで混乱を招くのではない。（木原委員）
- 産業構造や社会システムの変化をふまえて、15年先のあるべき高校の姿を国や県が描こうとしている中で、現状を前提として行きたい学科を中学生や保護者に問うことが何につながるのか。（木原委員）
- 高校の統合を進めるか否かについて、3択で聞いたとしても、なんとなく真ん中の「一定の統合は避けられない」と回答する保護者が多くなることが予想される。（木原委員）
- 通学時間については、他地域でだいたい90分までという結果が出ており、当地域でどうなのかを聞く意義はあるのではない。（安田委員）
- 行きたい課程について、全日制・定時制・通信制の3つから選択することになっているが、先日県が公表した3つの課程を行き来できる「みえ版フレキシブル高校」のように、今後は学び方自体が多様になっていくことを考えておく必要がある。（中川委員）
- 調査対象を中2と小5の保護者としているが、15年先までのあり方を考えるのであれば、当事者となる小学校低学年や未就学児の保護者にもアンケートを実施し、世代による違いがあるのかどうか調査してもよいのではない。（木原委員）（塚澤委員）
- 対象を先の世代まで広げすぎると当事者意識が低い中での回答となることが懸念される。例えば、数年後に改めて中2と小5の保護者にアンケートを実施するという方法の方がよいのではない。（安田委員）
- 令和9年度に協議会としての方向性を取りまとめることを考えると、実施時期は、令和8年度中の他地域と同じ9月頃が適切である。アンケートの内容や対象については、今回の意見をふまえ、次年度の協議会で改めて確認した上で実施することとしたい。（大日方会長）

津地域の高等学校の学科・コースについて（令和 9 年度）

下線：昨年度からの変更点

1. 全日制課程

県立

- ・津高等学校
- ・津西高等学校
- ・津商業高等学校
- ・津東高等学校
- ・津工業高等学校
- ・久居高等学校
- ・久居農林高等学校
- ・白山高等学校

普通科（320）
普通科（200）、国際科学科（80）
ビジネス科（160）、情報システム科（40）
 普通科（240）
 機械科（120）、電気科（40）、
 電子科（40）、建設工学科（40）
 普通科（160）
農業科学（40）、園芸科学（40）、
環境デザイン（40）、生活デザイン科（80）
 普通科（40）、
 情報コミュニケーション科（40）

私立

- ・高田高等学校
- ・セントヨゼフ女子学園高等学校
- ・青山高等学校

普通科（560）
 II類特別選抜クラス、II類進学クラス、
 I類進学クラス、6年制
 普通科（125）
 スーパーアドバンスコース（SAC）、
 アドバンスコース（AC）
 普通科（170）
 特進コース（35）、進学コース（65）、
 アスリートコース（70）、特進Sコース

2. 定時制課程

県立

- ・みえ夢学園高等学校

総合学科
 午前の部（40）、午後の部（40）、
 夜間の部（40）

3. 通信制課程

私立

- ・一志学園高等学校

普通科（40）
 全日型コース、土曜コース、
 フレックスコース

○ 課程

- ・全日制：通常の時間帯において授業を行う課程
- ・定時制：夜間その他特別の時間又は時期において授業を行う課程
- ・通信制：通信による教育を行う課程

○ 学科

・普通科：普通教育を主とする学科

※普通科、普通教育を施す学科として適当な規模及び内容があると認められる学科（学際領域に関する学科、地域社会に関する学科など）

・専門学科：専門教育を主とする学科

【職業系】農業科、工業科、商業科、水産科、家庭科、看護科、情報科、福祉科など
 職業教育を主とする学科

【普通科系】理数科、体育科、音楽科、美術科、外国語科、国際関係科など
 職業系以外の専門教育を施す学科

・総合学科：普通教育及び専門教育を選択履修の旨として総合的に施す学科

久居農林高等学校の学科の改編について

1 久居農林高校の概要

- ・明治 37 年開校以来、地域に根差した専門高校として、「農業」「家庭」の専門性を活かし、地域社会を担う将来のスペシャリストの育成に取り組んでいます。
- ・現在、農業学科（4 学科 4 学級）と家庭学科（1 学科 2 学級）を併設し、「生物・環境・生活」の情報発信の拠点として地域に貢献しています。

2 改編の趣旨

- ・本県においては、農林業の担い手不足の解消が喫緊の課題となっており、その課題を解決する人材を育成することが急務となっています。
 - ・そのために、A I ・ロボット等の最先端の技術を活用した学びや、地域課題の解決に取り組む探究的な学びをとおして、子どもたちに地域社会の持続可能な発展につながる多角的な視野と創造力を育むことが必要です。
 - ・農業学科の従来細分化されたコース制を見直し、令和 9 年度より「農業科学科」「園芸科学科」「環境デザイン科」の 3 学科に改編し、興味・関心に応じて学科を構成する分野を包括的・横断的に学習できるカリキュラムへと変更します。
- ※家庭学科（1 学科 2 学級）は継続します。

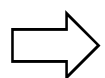
3 改編の概要

(1) 改編年度 令和 9 年度入学生より

(2) 学科改編の要点

【現状】

農業学科 4 学科



【学科改編後】

農業学科 3 学科

学科		コース	学科	学習内容
農業学科	生物生産科 (1 学級定員 40 名)	食品	農業科学科 (1 学級定員 40 名)	・稲作や鶏や羊などの動物飼育 ・味噌、焼菓子などの農産加工 ・生産・加工・販売を一貫して行う 6 次産業化
	生物資源科 (1 学級定員 40 名)	植物		
	環境情報科 (1 学級定員 40 名)	動物	園芸科学科 (1 学級定員 40 名)	・いちご、梨、ぶどうなどの野菜や果樹の栽培 ・デジタル技術を活用したスマート農業 ・野菜や果樹、草花の栽培や活用をとおした地域交流
	環境土木科 (1 学級定員 40 名)	環境保全		
		ガーデ (草花) ニング (造園)	環境デザイン科 (1 学級定員 40 名)	・ドローンを活用したスマート林業や測量 ・イスやすのこなどの木材加工 ・自然と調和した庭づくり
		土木・機械		

(3) 「課題研究」の高度化と魅力発信 (2、3 年生)

学びの集大成である「課題研究」において県内大学、県内企業、県・津市、地元の生産・流通業者などと連携し、より高度な探究活動に取り組み、その学びの成果を地域に還元します。

4 学科の目標や特色ある学習活動など

【農業科学科】

<目標>

農作物や畜産、農産加工に関する専門的な知識・技術を身につけ、生産・加工・販売を一体的にとらえ、地域の農と食の関連産業を担う人材を育成します。

<特色ある学習>

- ・食の安全・環境保全に配慮した農業生産工程管理（GAP）を取り入れた稲作や、家畜の生態にもとづいた適切な飼育管理
- ・育てた農産物の加工、流通・販売までを一体的に行う6次産業化の実践的な学習

<進路> 農業法人、食品関連企業、農業職公務員、農業系四年制大学・専門学校など

【園芸科学科】

<目標>

野菜・果樹・草花の栽培技術やその活用方法に関する専門的な知識・技術を身につけ、高品質な園芸製品の生産や、植物を通じた豊かな社会づくりに貢献できる人材を育成します。

<特色ある学習>

- ・センサーで温度や水を自動管理する温室を活用した高品質な野菜と草花の栽培
- ・野菜や果樹、草花の栽培や活用をとおした地域の園児・小学生との交流活動

<進路> 農業法人、花き流通・販売企業、農業職公務員、農業系四年制大学・専門学校など

【環境デザイン科】

<目標>

林業・農業土木・造園に関する専門的な知識・技術を身につけ、豊かな自然環境の保全と災害に強く持続可能な地域社会の構築に貢献できる人材を育成します。

<特色ある学習>

- ・ドローンを活用した林業や測量、企業や行政等の外部と連携した地域の防災・減災につながる森林保全の学習
- ・生態系に配慮し、自然と調和した造園・庭園設計

<進路> 林業・土木・造園関連企業、林業・土木職公務員、農業系四年制大学・専門学校など

新しいタイプの全日制高校「みえ版フレキシブル高校」について

1 設置の背景

- ・近年、不登校経験をはじめ多様な背景を有する生徒が増えており、定時制・通信制高校への入学者が増加していることもその一例です。
- ・高校生の学習ニーズや学習スタイルの多様化が見られることから、生徒一人ひとりの学びのニーズに寄り添える柔軟な教育の仕組みが求められています。

2 概要

- ・「フレキシブル高校」とは、全日制・定時制・通信制の課程の授業を、生徒が在籍課程を変更することなく横断的に履修できる新しい制度の高校です。
- ・「みえ版フレキシブル高校」では、生徒は全日制課程に在籍しながら、連携する他校の定時制・通信制の授業を履修できる新しい学びのスタイルとなります。
- ・柔軟な学習スタイルにより、不登校経験者や体調面で朝からの通学が難しい生徒も、安心して全日制高校で学ぶことができます。

3 設置校および連携校

- ・桑名北高校、久居高校、尾鷲高校の3校をパイロット校とし、入学定員の一部に「フレキシブルコース」を設けて運用を開始します。
- ・【募集人数】 入学定員の20%以内
- ・【応募資格】 志願校が実施するフレキシブル高校についての説明会等に参加し、フレキシブル高校の趣旨や学習スタイルについて理解するとともに、フレキシブル高校を志望する動機や理由が明確である者

設置校	学科・クラス数（人数）	連携校（課程）
桑名北高校	普通科・4クラス（160人）	北星高校（通信制）
久居高校	普通科・4クラス（160人）	松阪高校（通信制） みえ夢学園高校（定時制）
尾鷲高校	普通科・2クラス（70人）	松阪高校（通信制） 尾鷲高校（定時制）

＊普通科の定員の一部に「フレキシブルコース」を設けます。

＊尾鷲高校の他の学科・コースは該当しません。

4 運用開始時期

令和9年4月

5 「みえ版フレキシブル高校」の仕組み・特色

- ・「みえ版フレキシブル高校」では、連携する他の定時制高校や通信制高校の授業を受け、そこで修得した単位を卒業単位に加えることができます。（卒業に必要な74単位のうち、認定する単位数の上限は36単位です）

- ・通信制高校での単位修得をめざす場合、必要なスクーリング*を平日に自校で受講することもできます。
- ・登校する日以外は、自宅で学習を進めたり必要に応じて学校で先生のサポートを受けたりしながら、自分のペースで学ぶことができます。

*スクーリング：登校して教員から講義や実技指導を受けること。

6 今後の取組

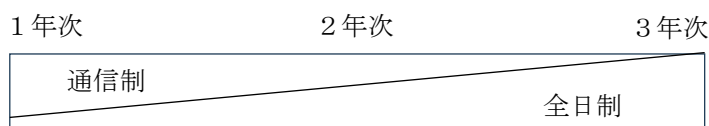
- ・令和8年度は、関心のある中学生が「みえ版フレキシブル高校」の仕組みや魅力を十分に理解し進路の選択肢として検討していただけるよう、パイロット校において個別の説明会等を実施します。
- ・令和9年度からの運用開始にむけて、準備を進めていきます。

「みえ版フレキシブル高校」のイメージ（例）

<パターン1>【桑名北高、尾鷲高】 登校日がフレキシブル（1年次の時間割の例）

	月	火	水	木	金
1					情報Ⅰ
2		体育			家庭
3		芸術Ⅰ	体育		家庭
4		芸術Ⅰ	情報Ⅰ		体育
5			総探		
6			LHR		

- ・網掛けが登校日。（自校で授業を受ける日）
- ・他校の通信制課程を併修。
- ・登校日以外は、自校でスクーリング受講またはレポート作成。（自宅での学習も可）



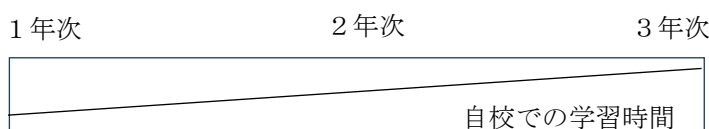
<履修のイメージ>

2年次以降は登校日を増やしていきます。

<パターン2>【久居高】 登校時間がフレキシブル

朝	1限	8:30～9:20	自校で学習または
	2限	9:30～10:20	他校の通信制課程を履修
共通タイム	3限	10:30～11:20	自校で学習
	4限	11:30～12:20	自校で学習
	昼休み SHR	12:20～13:10	
	5限	13:10～14:00	自校で学習
	6限	14:10～15:00	自校で学習
夕	7限		他校の定時制課程を履修

- ・網掛けが必ず登校する時間帯。（共通タイム）
- ・共通タイムは全ての生徒が登校。（朝、夕は選択制）
- ・共通タイムのみでは卒業単位に満たない場合、他校の通信制や定時制との併修も可能。（選択制）
- ・スクーリングは連携校で受講。



<履修のイメージ>

2年次以降は自校での学習時間を長くしていきます。

津地域の高等学校の学科・コースについて(令和9年度)

	学校名	大学科※	募集定員	1	2	3	4	5	6	7	8
津 地 域 全 日 制 課 程	津	普通科	320	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
		普通科	280	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	国際科学科	国際科学科	普通科
	津西	専門学科	200	ビジネス科 会計類型・経営情報類型	ビジネス科	ビジネス科	ビジネス科	情報システム科	ビジネス科		普通科
		普通科	240	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科		
	津東	普通科	240	機械科	機械科	機械科	電気科	電子科	建設工学科 建築コース 都市防災コース		
		専門学科	240	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科			
	久居	普通科	160	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科			
		専門学科	200	農業科学科	園芸科学科	環境デザイン科	生活デザイン科 食生活コース・衣生活コース・リビングコース	生活デザイン科			
	白山	普通科	80	普通科	情報コミュニケーション科 メディア類型 観光ビジネス類型						
		専門学科									
私 立	高田	普通科	560	Ⅱ 類特別選抜クラス、Ⅱ 類進学クラス、Ⅰ 類進学クラス、6 年制							
	セントヨゼフ女子学園	普通科	125	スーパーアドバンスコース、アドバンスコース							

全 4 3 学 級
普通科※ 2 6
専門学科 1 7
(工業 6)
(商業 6)
(農業 3)
(家庭 2)
総合学科 0

※大学の「普通科」には、普通科系専門学科を含む

普通科(特進コース、進学コース、アスリートコース) ※県外扱い

総合学科(午前の部)(40)、総合学科(午後の部)(40)、総合学科(夜間部)(40)

普通科(全日型コース、土曜コース、フレックスコース)

○全日制課程 私立 青山 170

○定時制課程 県立 みえ夢学園 120

○通信制課程 私立 一志学園 40

【参考】鈴鹿亀山地域の高等学校等の学科・コース(令和9年度)

	学校名	大学科※	募集定員		1	2	3	4	5	6	7	8
			普通科	専門学科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	理数科	理数科	
鈴鹿亀山地域全日制課程	神戸	普通科	280		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	理数科	理数科	
	飯野	普通科	160		応用デザイン科	英語コミュニケーション科	英語コミュニケーション科	普通科	文化教養(吹奏楽)コース			
	白子	普通科	240		普通科	普通科	普通科	普通科	生活創造科			
	石薬師	普通科	80		普通科	普通科	普通科	普通科				
	稲生	普通科	160		普通科	普通科	普通科	普通科				
私立	亀山	普通科	160		普通科	普通科	システムメディア科	総合生活科	システムメディア科			
	鈴鹿	普通科	470		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科			
			470		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科			

※大学科の「普通科」には、普通科系専門学科を含む

- 定時制課程 県立 飯野 80 普通科
- 通信制課程 県立 徳風 240 普通科(総合コース、ドッグケアコース、クリエイティブラボコース、日本語コース、3Dayコース、1Dayコース) ※技能連携あり
- 高等専門学校 国立 鈴鹿工業高専 200 機械工学科(40)、電気電子工学科(40)、電子情報工学科(40)、生物応用化学科(40)、材料工学科(40)

【参考】伊賀地域の高等学校等の学科・コース(令和9年度)

	学校名	大学科※	募集定員		1	2	3	4	5	6	7	8
			普通科	専門学科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	理数科	理数科	
伊賀地域全日制課程	上野	普通科	240		学際探究科	学際探究科	学際探究科	学際探究科	理数科			
	あけぼの学園	総合学科	40		総合学科(美容系列、生活教養系列)	機械科(35人)、電子機械科(35人)、建築デザイン科(35人)、生物資源科(35人)、フードシステム科(35人)、経営科(30人)、ヒューマンサービス科(35人)						
	伊賀白鳳	専門学科	240		総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科			
	名張	総合学科	200		(文理アドバンス系列、総合ビジネス系列、健康スポーツ系列、表現デザイン系列)	普通科	普通科	普通科	普通科			
	名張青峰	普通科	200		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科			
私立	桜丘	普通科	155		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科			

※大学科の「普通科」には、普通科系専門学科を含む

- 全日制課程 私立 愛農学園農業 25 農業科 ※県外扱い
- 定時制課程 県立 上野 40 普通科
- 通信制課程 県立 名張 40 普通科
- 通信制課程 私立 英心桔梗が丘校 60 普通科(探究コース、集中スクーリングコース)
- 通信制課程 私立 神村学園高等部伊賀 40 普通科(選択登校型自律学習コース、全日型特別能力コース) ※県外扱い
- 高等専門学校 私立 近畿大学工業高専 160 総合システム工学科(機械システムコース、電気電子コース、制御情報コース、都市環境(土木系、建築系)コース)

【参考】松阪地域の高等学校の学科・コース(令和9年度)

	学校名	大学科※	募集定員	1	2	3	4	5	6	7	8
				普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	理数科	理数科	
松阪地域全日制課程	松阪	普通科	280	工業化学科	機械科	繊維デザイン科	自動車科	電気工学科			
	松阪工業	専門学科	200	総合ビジネス科	総合ビジネス科	総合ビジネス科	国際ビジネス科				
	松阪商業	専門学科	160	総合学科(郷土・環境、介護福祉、総合進学、コンピュータ)							
	飯南	総合学科	80	普通科	普通科	生産経済科	環境創造科	食物調理科			
	相可	普通科 専門学科	200	総合学科(地域探究、総合スポーツ、美術工芸、生活福祉、環境技術)							
	泉学園	総合学科	80								
私立	三重	普通科	530	STELLAコース(特進クラス、選抜クラス、NAVISコース(進学クラス、アスリートクラス)、6年制(特別選抜クラス、選抜クラス))							
			530								

全25学級
普通科 9
専門学科 12
(工業5)
(商業4)
(農業2)
(家庭1)
総合学科 4

※大学科の「普通科」には、普通科系専門学科を含む

- 定時制課程 県立 松阪工業 普通科 40
○通信制課程 県立 松阪 普通科 200

令和 8 年度 津高校（全日制）の特色

1 めざす学校の姿

自由の校風と「自主・自律」の校訓のもと、高い知性と教養を持ったリーダーが育つ学校（自分で考え判断し、責任を持って行動することができ、高い志を抱いて社会に貢献することができる「自立した津高生」の育成をめざしています）

2 学校の特色（普通科 8 学級）

（1）個別最適な学びにつながる「進学型単位制」を導入

○難関大学をはじめ芸術・体育系など様々な大学への受験に対応する科目が数多く開講され、自分に合ったカリキュラムを組み立てることができます。習熟度別の少人数授業が充実するため、学びあいにより理解度が高まります。

（2）「自主・自律」の精神に基づく生徒自治

○津高校は明治 13 年（1880 年）の津中学校の開校から数えて 146 年の歴史と伝統があります。開校以来の「自主・自律」の精神に基づき、生徒自治を柱とした学校運営がなされており、学校行事等は 40 人以上の有志のメンバーで構成される生徒会執行部を中心に、すべて生徒主体で企画・運営されます。

○「縦割りディスカッション」（全学年が縦割りで少人数グループに分かれ、上級生がリーダーとなって津高ライフを伝授する）のほか、体育祭や文化祭、レクリエーション大会などの学校行事、また修学旅行や人権学習等も生徒が自主的に運営します。

○令和 8 年度から授業が 60 分×5 限となったことで放課後が約 30 分長くなり、部活動や探究活動など自分の「やりたいこと」にしっかり打ち込めます。（今年度 1 年生の部活動加入率は、約 89.3%で兼部を含むと約 115.2%です。）

○知的好奇心や自ら学ぶ力を引き出し、主体的な学びへとつなげます。授業での対話をとおして論理的に考える力や自分の考えを発信する力、他者を理解・受容する力を向上させるとともに、互いに高め合って学力の伸長を図ります。難関大学を志す生徒が共に学び合う取組等も充実しています。

（3）スーパーサイエンスハイスクール（SSH）をはじめとした豊かな探究・体験活動

○文部科学省により平成 19 年度からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けています（現在Ⅳ期目）。先進的な理数教育と現場での実体験を重視した学びにより、探究心を高め「創造性」「国際性」「課題解決能力」を育み、地域や日本、世界を牽引する人材の育成をめざしています。

＜外部機関との連携・体験活動＞→希望する生徒が参加

- ・京都大学・大阪大学・名古屋大学・三重大学等の研究室での実験実習
- ・東京大学&京都大学キャンパスツアー（模擬授業・部活サークル活動体験）
- ・三重県総合博物館・井村屋グループ・トヨタ自動車・住友電装等での研修
- ・地域医療体験、裁判員裁判見学、漁村での宿泊研修、田んぼでの稲作実習など

○全校生徒が 3 年かけて探究活動に取り組み、その成果を論文にまとめ発表します。

○姉妹校である台湾の高雄市立中山高級中學とオンラインを活用した共同研究やホームステイによる相互訪問を実施し、研究成果を英語で発表する活動を行っています。昨年度はベトナム研修も実施しました。

○「先輩から学ぶ日」を秋休みに実施し、卒業生の方から進路決定に向けて参考になる話を聞く場を設けています。

（4）多くの生徒が集う図書館

○生徒は、授業、探究活動、部活動など様々な場面で図書館とその本を活用しています。

○放課後を中心に、青空図書館や図書館文化講座、車座トーク、図書館ライブなど多彩なイベントが年間 30 回以上あり、様々な人と出会い学びあえる場となっています。

令和8年度 津西高校（全日制）の特色

1 めざす学校の姿

- 高い知性と豊かな感性を備え、高い志と広い視野を持って、夢の実現に向け行動する、たくましい生徒の育成をめざす学校
- 豊かな人間性と社会性を持ち、社会の進展に主体的に対応して、国際社会、地域社会に貢献する生徒の育成をめざす学校

2 学校の特色（国際科学科 2学級、普通科 6学級）

<国際科学科>

世界と伍する卓越した研究を行っている大学進学をめざすとともに、国際社会で活躍できるリーダーの育成を目標としています。80人の小集団というアドバンテージを生かして、「津西 CONNECT」（先端技術をテーマとする高大連携プログラム、大学、企業、地域と連携した取組等）、国際的に活躍されている人材との交流など、特別プログラムを設定しています。また、2年次からは3クラスに分かれ、1クラス20～30人程度のゆとりある環境で安心して学ぶことができます。

<普通科>

- （1）「進学型単位制」の採用 自由度の高い講座展開が可能となり、生徒は自らの学習状況や学習到達目標に応じた授業に参加し、学びを自ら進める自律的学習を行っています。また、多様な進路希望に対応することを目的として、学校設定科目等、豊富な選択科目の設定により、大学進学や興味関心に応じた授業を選ぶことができます。
- （2）非認知能力の育成（豊かな人間性の育成） 積極性や粘り強さ、リーダーシップ等、従来数値化できない資質・能力を多面的に測定し、その結果をフィードバックすることで、自らの強みを知り、生徒の自律的成長を促すプログラムを進めています。教員は生徒の理解をより深めることで、生徒が日常の学習や行事・探究活動など、それぞれの系統において、その強みを十分に発揮できるようサポートします。
- （3）探究学習プログラム「西考」 13系統60テーマに分かれ、地域学から先端研究まで幅広く扱う本格的課題研究を実施しています。地域で活躍する卒業生を中心に企業、団体、大学から探究メンターを招聘し、自分の進路とテーマを結びつけることで、高いモチベーションのもと主体的な学習を展開しています。また、2年に1回、海外での異文化探究プログラム（オーストラリア等）を実施しています。また、科学教育振興プログラム（中谷財団）及び知財開発校支援事業（工業所有権情報・研修館 4ヵ年）の指定を受け、自然科学分野の探究活動の拡大並びに知的財産にかかる地元企業との産学連携プログラムを進めています。
- （4）「西高サポートクルー」 地域で活躍している卒業生をはじめ、企業、団体、行政、個人からなる「西高応援団」です。本校の探究学習プログラムは、「西高サポートクルー」の皆さんの支援を中心に展開しています。

<部活動>

創立以来、広く、整備の行き届いた施設を生かしたクラブ活動がさかんで、約30のクラブが活動しています。進学校ながら約9割の生徒が加入しており、部活動をとおした豊かな人間性の涵養を校是としています。「短時間集中」をモットーに活動し、多くのクラブが県内で優秀な成績を収め、東海大会や全国大会へ出場しています。

<進路指導>

ほぼ全員が大学入学共通テストを受験し、半数の生徒が国公立大学に合格しています。教科指導と関連づけた進路シラバス作成、進路研修会等を通じて教員の共通理解を図り、3年間を通して学校全体が同じ視点で指導できるよう努めています。

令和8年度 津東高校（全日制）の特色

1 めざす学校の姿

- 自分らしくたくましく「未来を切り拓く力」を育成する津東高校
- 「向学立志」の精神を大切にし、地域に信頼される津東高校

2 学校の特色（普通科 6学級）

（1）類型制クラス編制によるきめ細かな学習指導、進路指導

単位制高校の特色を生かして多様な科目の講座を開設し、生徒一人ひとりの進路希望の実現をめざします。進路希望に応じて、Sクラスを2クラス、Fクラスを4クラスとする2つの類型制クラス編制をとっています。

<Sクラス>

- 1年次より国公立大学をはじめとする四年制大学進学を強く希望する生徒で編制するクラスです。
- 国公立大学等への進学に向けた、高い学力を身につけていきます。2年次から「文系」と「理系」の2つに分かれ、それぞれの進路希望に応じた学習を進めていきます。
- Sクラス独自の行事として、夏季休業中の大学見学会や土曜補講を実施し、高い志と広い視野を持つよう意識しています。

<Fクラス>

- Fクラスは1年次で共通科目を学習し、2年次では「文系」と「理系」の2つの系列に分かれ、3年次にはさらに4つの系列から自分の進路に最も適したものを選び、進路希望の実現を図ります。
- 大学見学会や土曜補講は、Fクラスの生徒については、希望者の参加となります。クラスを越えて切磋琢磨するよい機会となっています。

（2）探究活動「自分らしくプロジェクト」

自分らしくたくましく「未来を切り拓く力」（対話力・追究力・創造力・発信力）を育成するため、1、2年次の「総合的な探究の時間」において、探究活動「自分らしくプロジェクト」に取り組んでいます。

- 「自分らしくプロジェクト」は個人研究です。自分の興味関心や好奇心、疑問等から、一人ひとりが自らテーマを設定し、「答えが一つでない問い」に対して「自分らしい答えを創る」経験をしていきます。
- 各クラスには多種多様な経歴を持った外部メンターの方に付いていただき、生徒に伴走していただいています。

（3）充実した学校行事や部活動

- 体育祭やクラスマッチ等、生徒会執行部が中心となって、生徒自らが作り上げていきます。特に文化祭の一般公開は、たくさんの方に来場いただき、大変な盛り上がりを見せます。
- たくさんの部活動があり、約8割の生徒が部活動に励んでいます。全国大会や東海大会にも出場するなど、活発に活動しています。

令和8年度 津工業高校（全日制）の特色

1 めざす学校の姿

校訓『質実剛健』のもと、「ものづくり、ひとづくり」をとおり、「志、技、心」を育み、生徒の夢を実現し、次代の産業界を担う人材を輩出する学校

2 学校の特色（建設工学科・電気科・電子科 各1学級、機械科 3学級）

平成29年度に創立100周年を迎えた長い歴史と伝統を有する、中勢地区唯一の工業高校

（1）「こんな生徒に入学してほしい！」（アドミッション・ポリシー）

- 「ものづくり」に興味・関心があり、工業に係る専門知識・技術の習得に強い意欲を持ち、自己の進路実現に向かって主体的に学ぶ生徒
- ルールやマナーを順守し、良好なコミュニケーションを心がけながら、基本的生活習慣の確立に向かって弛みなく行動する生徒
- 部活動や生徒会活動、資格取得等の自主的・自発的な活動の充実に向かって積極的にチャレンジする生徒

（2）「こんなことを学んでほしい！」（カリキュラム・ポリシー）

- <建設工学科>土木技術者、建築技術者としての活躍をめざし、木工実習や基礎測量等の共通の知識・技術とともに、建築コースと都市システムコースに分かれて専門的な知識・技術を学びます。
- <電気科>電気技術者としての活躍や国家資格の取得をめざし、発電・送電・配電から電気の応用までの知識・技術を幅広く学びます。
- <電子科>電子技術者としての活躍をめざし、電気の基礎から電子回路、通信技術や情報処理技術等の専門までの知識・技術を幅広く学びます。
- <機械科>機械技術者としての活躍をめざし、全産業の基盤となる機械工学に必要な設計や工作、製図や原動機等の知識・技術を学びます。

（3）「こんな生徒になってほしい！」（グラデュエーション・ポリシー）

- 明確な目的意識を持ち、自己の進路実現に向かって努力することで、基礎学力と工業に係る専門知識・技術を身に付けた生徒
- 地域や企業の期待に応えるために、基本的生活習慣が確立し、規範意識やコミュニケーション力等の社会人基礎力を身に付けた生徒
- 心身ともにたくましく健やかで誠実、社会に貢献できるように健康を保持増進し、他者を思いやり命を大切にする人権感覚を身に付けた生徒

（4）部活動について

硬式野球、軟式野球、テニス、ラグビー、サッカー、バドミントン、ハンドボール、陸上競技、バスケットボール、バレーボール、弓道、卓球、山岳、ヨット、美術、軽音楽、建設研究、電気研究、電子研究、機械研究、理科学研究、人権サークル等の多彩な部活動に、多くの生徒が取り組み、世界・全国・地域の大会等で活躍しています。

（5）資格取得について

2級施工管理技士補（建築・土木）、2級建築士（受験資格）、第1・2種電気工事士、第3種電気主任技術者、技能士（電子機器組立・機械保全・機械検査等）、ITパスポート、陸上特殊無線技能士、2級ボイラー技士、危険物取扱者等の多様な資格取得に、多くの生徒が取り組み、専門知識・技術を向上させています。

（6）地域・大学等との連携について

金沢工業大学と連携協定を結び、デジタル技術や最新の工業技術について知見を得ることで、教育活動の充実を図っています。昨年度は地元企業と連携し、津市栄町公園のイルミネーションの飾りつけと点灯を行いました。現在、明和町立図書館の書架を作製しています。

令和8年度 津商業高校（全日制）の特色

1 めざす学校の姿

「全力津商」の精神のもと、商業の見方や考え方を重視した学校教育活動をととして「知識・技術」「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を育み、地域社会に貢献できる人材を育成する学校

2 学校の特色（ビジネス科 5学級、情報システム科 1学級）

（1）各学科の特色

＜ビジネス科＞

ビジネス社会で必要とされる幅広い知識と技術（経営状況と経済の動向を読み解く力）を高め、実社会で活躍できる人材を育成します。2学年より**会計類型**と**経営情報類型**に分かれ、さらに専門性を高めています。

＜情報システム科＞

ビジネス社会におけるデジタル技術（経営状況とデータを論理的に活用する力）を高め、DX推進人材を育成します。最先端のデジタル技術を活用し、プログラミングやシステム開発をととして課題解決能力を高めています。

- 両学科共に、商業の学びや資格を活かし、地元企業に即戦力として事務職や総合職などで就職するほか、商学・経営・情報系の大学に進学する生徒も多数います。

（2）専門性を生かした課題解決型の探究活動（学科共通）

- 商業科目「ビジネス基礎」におけるビジネス探究プログラムの推進（1学年）
消費者の立場で見ていた身近なビジネス社会を経営者の立場で考え、問いを深め、新たなビジネスを発想するアクティブな授業を展開しています。
- 商業科目「課題研究」におけるテーマ別の探究学習（3学年）
地元銘菓店、津市観光協会、各専門分野の方々と連携し、「商品開発」「三重の観光研究」「ビジネスプラン提案」「ゲームアプリ制作」などのビジネスの視点を重視した探究活動をととして、地域社会に貢献する人材を育成しています。

（3）地域や産業界等と連携した取組

- 人権フィールドワーク（1学年）
個別的な人権問題（部落問題や障がい者の人権等）に関する調査研究を行い、関係者を招いて報告会を実施、人権尊重の実践行動ができる意欲・態度を育んでいます。
- インターンシップ（2学年）
津商工会議所と連携して夏季休業中に実施する地元企業での就業体験参加者と、大学のオープンキャンパス参加者が一緒に報告会を行い、生徒のキャリア発達の促進に努めています。
- 韓国世宗大聖高等学校との姉妹校交流（希望者）
20年を超える長きにわたり、学校訪問やホームステイ、オンラインによる交流を重ね、互いの国の言語、歴史文化、食、社会課題に関する相互理解を深めています。

（4）部活動の振興

約8割の生徒が部活動に取り組んでおり、スポーツや文化活動を通じて、個人やチームの目標達成に挑戦しています。運動部（9）・文化部（15）が活発に活動し、多くの部が全国レベルの成果をあげています。

令和8年度 みえ夢学園高校（定時制）の特色

1 めざす学校の姿

自分を見つめ、夢の実現に向けてチャレンジできる生徒が育つ学校

【育みたい生徒の姿】

- 自分の持ち味を生かしながら、自立し、充実した社会参画ができる力を身につけた生徒
- 向上心を持って何事にも積極的にチャレンジする生徒
- 社会の形成者としての自覚を持ち、自己の役割を果たすことができる生徒
- 進路実現に向けて、必要な基礎学力を身につけている生徒
- 心地よい人間関係を築くために、ルールやマナーを大切にしている生徒

2 学校の特色（総合学科：午前の部・午後の部・夜間部 各1学級）

- 3部制となっており、自分のスタイルに応じた時間で学習することができます。

午前の部… 8:45～12:10

- 社会福祉系列 : 介護福祉士の受験資格取得をめざします。
- 服飾デザイン系列 : 服飾に関する知識・技術を身につけます。
- 国際経営系列 : 英語検定や商業関係の資格取得をめざします。

午後の部…13:10～16:35

- 福祉サービス系列 : 社会福祉一般に関する知識・技術を身につけます。
- デザイン・美術系列 : 造形・表現に関する知識・技術を身につけます。
- ビジネス情報系列 : 商業や情報処理の実務能力を身につけます。

夜間部……17:30～20:55

- ビジネスサービス系列 : 商業関係の資格取得をめざします。
- デザイン・工芸系列 : 工芸に関する知識・技術を身につけます。
- 文化教養系列 : 社会生活を送るために必要な教養を身につけます。

- 修業年数（卒業するまでの年数）は4年以上ですが、他部の授業を選択することで3年で卒業することができます。（三修制）
- 他部の授業の選択や通信制併修など、多様な学び方を提供しています。
- 単位制で、自分の興味・関心や進路に応じて科目を選択します。そのため、選択科目に応じて、時間割は一人ひとり異なります。
- 福祉関係、美術関係、服飾関係、商業関係、外国語関係など、特色ある多様な科目から選択し、学習することができます。（約100科目開設）
- 基本的に20名以内の少人数講座で、誰もが学びやすいユニバーサルデザインの授業を行っています。
- 外国につながるのある生徒への日本語指導を行っています。また、学習や生活上の困難さを克服する通級指導を行っています。
- スクールカウンセラー、発達障がい支援員、スクールソーシャルワーカーなど、多くの外部の専門家による支援を行っています。
- 部活動や学校行事（文化祭・遠足・研修旅行など）など、全日制に近い学校生活を送ることができます。
- 令和7年4月、本校敷地内に三重県立みえ四葉ヶ咲中学校（夜間中学）が開校しました。

令和8年度 久居高校（全日制）の特色

1 めざす学校の姿

自分らしく学びを選ぶことができ、進学にも就職にも対応した確かな進路保障を通じて、地域や社会に貢献する人材を育むことができる学校

2 学校の特色（普通科 4学級）

調和のとれた人間性豊かな生徒の育成に取り組んでいます。生徒の進路希望は4年制大学進学から就職まで幅広く、平成9年度から単位制カリキュラムの実施により生徒の多様なニーズに応え、進路実現をサポートする学校として生徒・保護者・地域の期待に応え、信頼される学校づくりを推進しています。

（1）単位制・コース制の特長を生かした学びの充実

（4学級をスポーツコース1クラス＋普通コース3クラス＋チャレンジコース1クラスに展開）

<スポーツコース>

- 3年間をとおして体育の専門科目をカリキュラムに取り入れた授業と校外実習等により、運動能力を生かし多様な進路が実現できるようサポートします。
- 体育・スポーツの実践と理論の修得をカリキュラムの中心においたコースで、生活のあらゆる場面で何事にも積極的にかかわり、リーダーシップのとれる人材の育成をめざします。
- 科学的トレーニング法など新しいスポーツ理論を学習し、多様なスポーツを体験することをとおして、個人の特性・能力を高めます。
- 体育系をはじめとする大学や専門学校で専門的に学習を続ける生徒、また将来にわたり実社会でのスポーツに主体的にかかわることのできる人材の育成をめざします。
- 夏季や冬季には、水泳・スキーなどの野外実習も行い、幅広くスポーツ経験を積むことができます。

<普通コース>

- 選択科目の時間枠を最大に広げたカリキュラムで学習します。
- 2年次より、各自が希望する授業に分かれてのきめ細かな学習指導と授業選択モデルの設定により、4年制大学・短期大学・専門学校への進学、就職（公務員試験対策含む）など多様な進路希望の実現をサポートします。
- 授業選択モデルは、看護であれば「看護医療探究」、保育であれば「幼児コミュニケーション」、公務員であれば「公共社会学研究」など、進路希望実現に向けた特色ある科目を設定しています。

<チャレンジコース>

- 総合型選抜、学校推薦型選抜や、大学入学共通テストを含めた一般受験で、国公立を含む4年制大学をめざす人を、基礎学力の定着から応用力養成まできめ細かく親身にサポートします。
- 「第一志望はゆずれない!」という強い意志を持って努力する人を、夢の実現に向けてしっかりとサポートします。

（2）学校生活の充実

- 遠足、体育祭、文化祭、スポーツ大会、芸術鑑賞会、修学旅行等の学校行事を通じて、仲間と共に楽しい時間を共有することができます。
- 部活動では、運動部（13）・文化部（9）が活発に活動しており、県大会・地区大会・全国大会で活躍するなど、充実した学校生活を過ごすことができます。

令和8年度 久居農林高校（全日制）の特色

1 めざす学校の姿

- 「農業」「家庭」の専門性を生かし、地域社会を担う将来のスペシャリストを育成します
- 「生物」「環境」「生活」の情報発信基地として、地域に貢献します

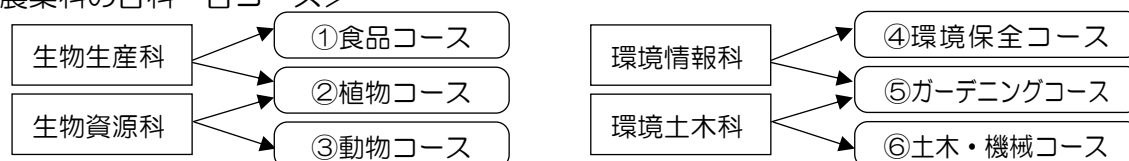
2 学校の特色（生物生産科・生物資源科・環境情報科・環境土木科 各1学級、生活デザイン科 2学級）

本校は明治37年三重県立農林学校として開校し、創立122周年を迎えた歴史と伝統のある農業科と家庭科の専門高校です。農業科に6コース、生活デザイン科に3コースの計9コースを設置し、生徒のニーズに応じた多様で専門性を追究した学びができます。

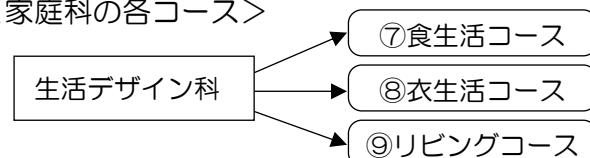
地域交流に積極的に取り組み、令和4年度からは榊原地域の活性化に関わる事業に参加し、地元食材を活用したスイーツやランチメニュー等の開発に取り組んでいます。また、平成22年度より取り組んでいる「わくわく農林塾」では、地元の保育園児や小学生等を招き、本校の生徒が先生役となって実施する交流授業をしています。当時参加した子どもたちが本校に何人も入学しており、よき伝統となりつつあります。

（1）学科とコースについて

＜農業科の各科・各コース＞



＜家庭科の各コース＞



（2）各コースについて

- ①食品コース……………多様な生産物から自分たちで安全・安心な加工食品を生み出すスペシャリストをめざします。
- ②植物コース……………環境に配慮した安全・安心な野菜・果物のスペシャリストをめざします。
- ③動物コース……………命の大切さを基本とし、ペットから家畜までの幅広い動物のスペシャリストをめざします。
- ④環境保全コース……………自然の持つ多様な機能を理解し、環境保全活動に貢献できるスペシャリストをめざします。
- ⑤ガーデニングコース…花や緑に囲まれた生活空間を創造するスペシャリストをめざします。
- ⑥土木・機械コース……………地球環境を守り、快適な生活空間を創造するプランナー・エンジニアをめざします。
- ⑦食生活コース……………豊かな食生活を調理実習や食文化の視点から学びます。
- ⑧衣生活コース……………豊かな衣生活を服作りと服飾文化の視点から学びます。
- ⑨リビングコース……………豊かな住まいをものづくりと福祉の視点から学びます。

令和 8 年度 白山高校（全日制）の特色

1 めざす学校の姿

地域を愛する若者を育成し、地域の活性化に貢献する取組を行う学校

2 学校の特色（普通科 1 学級、情報コミュニケーション科 1 学級）

昭和 23 年に三重県久居高等学校（現・久居農林高等学校）家城分校として開校し、昭和 34 年に普通科・農業科・家庭科を設置する三重県立白山高等学校として独立しました。現在は、普通科と情報コミュニケーション科（商業科）の 2 学科が設置されており、少人数授業を行うなど一人ひとりにあった学びが柔軟にできる学校として、創立以来多くの卒業生を輩出しています。

本校のスクールポリシーは、「あなたの好きを見つけよう」です。生徒は毎日、自らの目標に向かって、学習活動や部活動などに活発に取り組んでいます。また、目標がまだ見つかっていない生徒は、教職員とじっくり話をしながら、自ら目標を定めていきます。

豊かな自然や地域の方のサポートなど教育的に恵まれた環境の下、地域を愛する若者を育成し、地域の活性化に貢献する学校をめざしています。

【校 訓】努力・誠実・強健

【重点目標】確かな学力と規範意識の育成、地域とともにある学校づくりの推進、生徒のための教職員組織づくりの推進

（1）各学科の特色

＜普通科＞

○少人数制の授業を実践しており、第 2 学年から 2 つの類型に分かれます。

①**普通類型**では、基礎学力の徹底を図り、社会に出るための全般的な教養を身につけます。

②**福祉類型**では、福祉・介護分野への就職・進学や介護職員初任者研修の資格取得をめざし、専門的な実習や授業を行います。

＜情報コミュニケーション科＞

○第 1 学年では商業の基礎を学び、第 2 学年から 2 つの類型に分かれます。

①**メディア類型**では、パソコンなどのメディアを活用した情報処理や情報発信等の能力を身につけます。

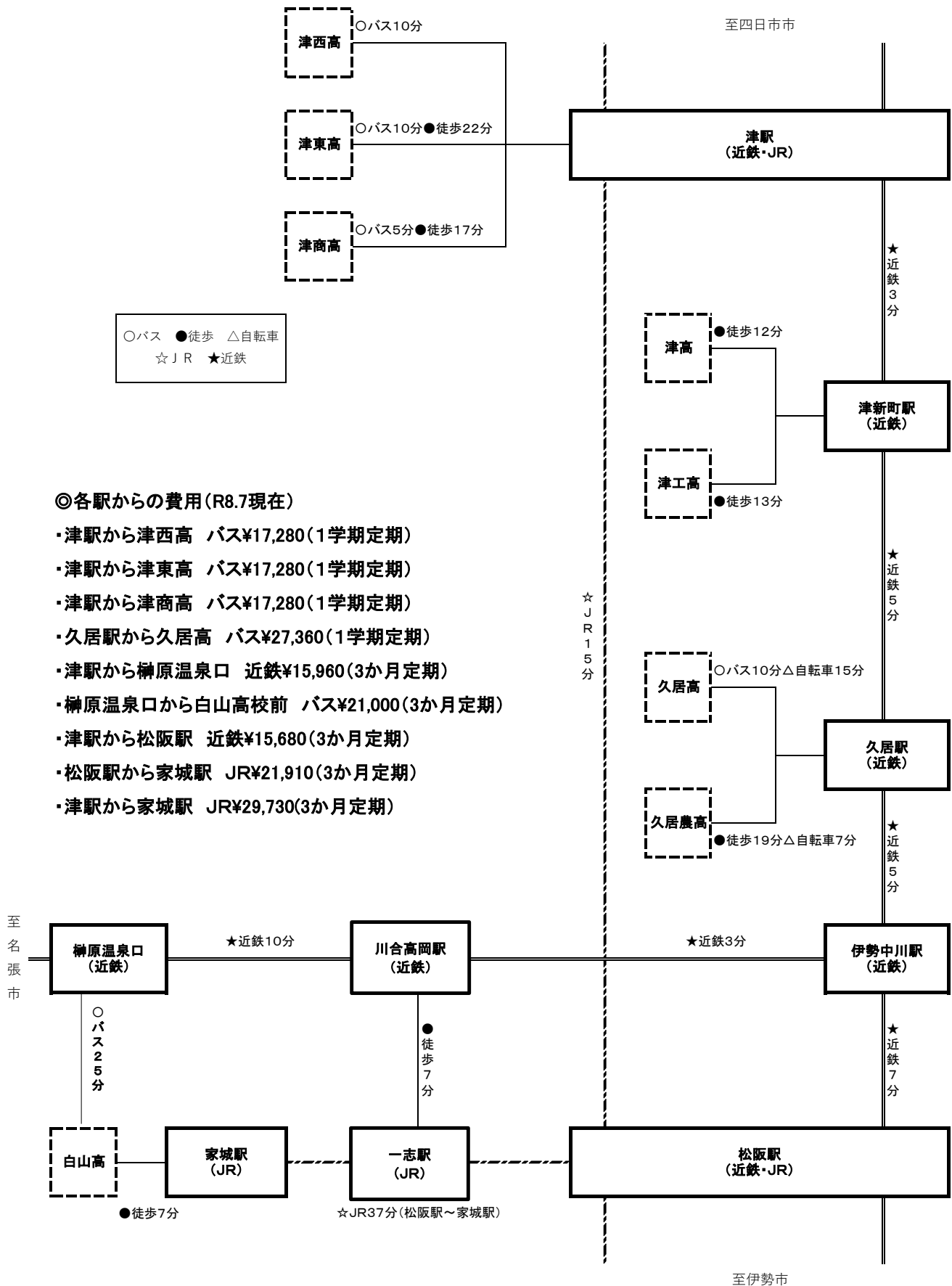
②**観光ビジネス類型**では、簿記などの商業の学習、地域での体験学習や商品 P R などをおとして、白山地域の観光やおもてなしの精神を学びます。

（2）「総合的な探究の時間」を活用したキャリア教育

○第 1 学年には、S S T（ソーシャルスキルトレーニング）を導入し、対人関係能力や自己理解・自己表現の力を育成します。あわせて、I C T 機器の活用や調べ学習をおとして地域理解を深め、郷土への愛着を育むとともに、多様な視点で地域を捉える力を養います。第 2 学年には、テーマを定めたグループに分かれ、地域の産業や特徴を探究します。第 3 学年には、普通科は年間をとおしたインターンシップで、情報コミュニケーション科は課題研究で、地域企業や職業人と触れ合う機会を設け、社会人として必要なスキルを学びます。本校での 3 年間のキャリア教育をとおし、卒業後は地域で即戦力として活躍できる人材になることを期待しています。

津地域の県立高等学校(全日制)への交通手段等

(1)交通手段・費用・時間



(2)通学方法別生徒数と割合

R8. 5. 1 学校基本調査より

		津	津西	津商業	津東	津工業	久居	久居農林	白山
徒歩のみ		43	20	24	54	17	7	17	14
		4.5%	2.1%	3.4%	7.2%	2.4%	1.3%	2.5%	8.2%
自転車のみ		205	252	96	154	175	335	261	9
		21.5%	26.6%	13.5%	20.4%	25.0%	61.5%	38.1%	5.3%
JRのみ		7	1	53	53	25	0	4	31
		0.7%	0.1%	7.4%	7.0%	3.6%	0.0%	0.6%	18.2%
私鉄のみ		299	3	223	203	166	0	101	2
		31.4%	0.3%	31.3%	26.9%	23.7%	0.0%	14.7%	1.2%
バスのみ		16	43	18	31	4	11	14	3
		1.7%	4.5%	2.5%	4.1%	0.6%	2.0%	2.0%	1.8%
JRと	私鉄	36	0	3	1	17	1	24	4
		3.8%	0.0%	0.4%	0.1%	2.4%	0.2%	3.5%	2.4%
	バス	5	58	5	8	0	4	0	1
		0.5%	6.1%	0.7%	1.1%	0.0%	0.7%	0.0%	0.6%
	自転車	11	46	50	68	45	11	4	63
		1.2%	4.8%	7.0%	9.0%	6.4%	2.0%	0.6%	37.1%
私鉄と	バス	39	275	28	33	10	31	9	2
		4.1%	29.0%	3.9%	4.4%	1.4%	5.7%	1.3%	1.2%
	単車	0	0	0	0	2	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	自転車	210	119	197	136	234	117	162	7
		22.0%	12.5%	27.6%	18.0%	33.4%	21.5%	23.6%	4.1%
バスと自転車		5	24	4	6	1	14	8	2
		0.5%	2.5%	0.6%	0.8%	0.1%	2.6%	1.2%	1.2%
その他		77	108	12	8	5	14	81	32
		8.1%	11.4%	1.7%	1.1%	0.7%	2.6%	11.8%	18.8%
合計		953	949	713	755	701	545	685	170

(3) 通学費用別生徒数と割合

R8. 5. 1 学校基本調査より

	津	津西	津商業	津東	津工業	久居	久居農林	白山	合計	積み上げ
不要	313	280	115	215	191	353	309	33	1,809	1,809
	32.8%	29.5%	16.1%	28.5%	27.2%	64.8%	45.1%	19.4%	33.1%	33.1%
3000円以内	87	19	26	57	45	32	51	5	322	2,131
	9.1%	2.0%	3.6%	7.5%	6.4%	5.9%	7.4%	2.9%	5.9%	39.0%
5000円以内	248	154	240	243	222	73	141	22	1,343	3,474
	26.0%	16.2%	33.7%	32.2%	31.7%	13.4%	20.6%	12.9%	24.5%	63.5%
7000円以内	152	168	178	124	170	40	62	42	936	4,410
	15.9%	17.7%	25.0%	16.4%	24.3%	7.3%	9.1%	24.7%	17.1%	80.6%
9000円以内	33	150	47	36	26	10	28	28	358	4,768
	3.5%	15.8%	6.6%	4.8%	3.7%	1.8%	4.1%	16.5%	6.5%	87.2%
11000円以内	62	94	30	31	23	12	29	20	301	5,069
	6.5%	9.9%	4.2%	4.1%	3.3%	2.2%	4.2%	11.8%	5.5%	92.7%
13000円以内	23	33	28	15	11	7	23	3	143	5,212
	2.4%	3.5%	3.9%	2.0%	1.6%	1.3%	3.4%	1.8%	2.6%	95.3%
15000円以内	12	12	16	12	6	9	40	6	113	5,325
	1.3%	1.3%	2.2%	1.6%	0.9%	1.7%	5.8%	3.5%	2.1%	97.3%
15001円以上	23	39	33	22	7	9	2	11	146	5,471
	2.4%	4.1%	4.6%	2.9%	1.0%	1.7%	0.3%	6.5%	2.7%	100.0%
合計	953	949	713	755	701	545	685	170	5,471	5,471

※通学費用は1か月あたりの費用

(4) 通学時間別生徒数と割合

R8. 5. 1 学校基本調査より

	津	津西	津商業	津東	津工業	久居	久居農林	白山	合計	積み上げ
15分以内	110	104	45	65	75	58	86	23	566	566
	11.5%	11.0%	6.3%	8.6%	10.7%	10.6%	12.6%	13.5%	10.3%	10.3%
30分以内	251	182	101	135	174	188	165	23	1,219	1,785
	26.3%	19.2%	14.2%	17.9%	24.8%	34.5%	24.1%	13.5%	22.3%	32.6%
45分以内	217	216	164	137	139	183	174	26	1,256	3,041
	22.8%	22.8%	23.0%	18.1%	19.8%	33.6%	25.4%	15.3%	23.0%	55.6%
60分以内	195	285	257	257	215	88	161	47	1,505	4,546
	20.5%	30.0%	36.0%	34.0%	30.7%	16.1%	23.5%	27.6%	27.5%	83.1%
90分以内	153	98	132	142	86	25	77	33	746	5,292
	16.1%	10.3%	18.5%	18.8%	12.3%	4.6%	11.2%	19.4%	13.6%	96.7%
120分以内	25	63	12	17	11	3	17	12	160	5,452
	2.6%	6.6%	1.7%	2.3%	1.6%	0.6%	2.5%	7.1%	2.9%	99.7%
121分以上	2	1	2	2	1	0	5	6	19	5,471
	0.2%	0.1%	0.3%	0.3%	0.1%	0.0%	0.7%	3.5%	0.3%	100.0%
合計	953	949	713	755	701	545	685	170	5,471	5,471

※通学時間は片道の所要時間

(5) 自宅外通学生徒数

R8. 5. 1 学校基本調査より

	津	津西	津商業	津東	津工業	久居	久居農林	白山	合計
下宿	0	2	8	1	2	0	0	10	23
寄宿舎	0	0	0	0	0	0	4	0	4
合計	0	2	8	1	2	0	4	10	27

津地域の県立高等学校卒業生(全日制)の進路状況(令和8年3月卒)

学校名	学科	四年制大学	短大	専門学校等	就職	その他	卒業者数
津	普通	256	3	2	0	53	314
		81.5%	1.0%	0.6%	0.0%	16.9%	100.0%
津西	普通 国際科学	277	2	3	1	24	307
		90.2%	0.7%	1.0%	0.3%	7.8%	100.0%
津商業	商業	76	17	59	82	2	236
		32.2%	7.2%	25.0%	34.7%	0.8%	100.0%
津東	普通	221	12	17	2	20	272
		81.3%	4.4%	6.3%	0.7%	7.4%	100.0%
津工業	工業	32	1	16	170	7	226
		14.2%	0.4%	7.1%	75.2%	3.1%	100.0%
久居	普通	60	26	46	51	6	189
		31.7%	13.8%	24.3%	27.0%	3.2%	100.0%
久居農林	農業 家庭	18	10	44	149	2	223
		8.1%	4.5%	19.7%	66.8%	0.9%	100.0%
白山	普通	2	2	2	18	0	24
		8.3%	8.3%	8.3%	75.0%	0.0%	100.0%
	情報 コミュニケーション	3	1	12	18	0	34
		8.8%	2.9%	35.3%	52.9%	0.0%	100.0%

普通科計 (普通科系専門学科含む)	816	45	70	72	103	1,106
	73.8%	4.1%	6.3%	6.5%	9.3%	100.0%
専門学科計 (職業系専門学科)	129	29	131	419	11	719
	17.9%	4.0%	18.2%	58.3%	1.5%	100.0%
合計	945	74	201	491	114	1,825
	51.8%	4.1%	11.0%	26.9%	6.2%	100.0%

※上段は人数、下段は卒業者数に対する割合を表す

※「四年制大学」は大学校を含む

※「短大」は高専を含む

※「その他」は進学待機を含む

津地域の県立高等学校卒業生(全日制)の進路状況(令和7年3月卒)

学校名	学科	四年制大学	短大	専門学校等	就職	その他	卒業者数
津	普通	249	0	1	0	65	315
		79.0%	0.0%	0.3%	0.0%	20.6%	100.0%
津西	普通 国際科学	268	5	3	0	25	301
		89.0%	1.7%	1.0%	0.0%	8.3%	100.0%
津商業	商業	56	15	67	94	5	237
		23.6%	6.3%	28.3%	39.7%	2.1%	100.0%
津東	普通	224	6	15	3	16	264
		84.8%	2.3%	5.7%	1.1%	6.1%	100.0%
津工業	工業	28	3	20	161	0	212
		13.2%	1.4%	9.4%	75.9%	0.0%	100.0%
久居	普通	65	15	65	44	2	191
		34.0%	7.9%	34.0%	23.0%	1.0%	100.0%
久居農林	農業 家庭	16	20	52	126	4	218
		7.3%	9.2%	23.9%	57.8%	1.8%	100.0%
白山	普通	3	4	13	31	1	52
		5.8%	7.7%	25.0%	59.6%	1.9%	100.0%
	情報 コミュニケーション	2	1	4	12	0	19
		10.5%	5.3%	21.1%	63.2%	0.0%	100.0%

普通科計 (普通科系専門学科含む)	809	30	97	78	109	1,123
	72.0%	2.7%	8.6%	6.9%	9.7%	100.0%
専門学科計 (職業系専門学科)	102	39	143	393	9	686
	14.9%	5.7%	20.8%	57.3%	1.3%	100.0%
合計	911	69	240	471	118	1,809
	50.4%	3.8%	13.3%	26.0%	6.5%	100.0%

※上段は人数、下段は卒業者数に対する割合を表す

※「四年制大学」は大学校を含む

※「短大」は高専を含む

※「その他」は進学待機を含む

津地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況【令和 8 年度：現高 1】

学校名	学科・コース	R 8 入学 定員	R 7. 12月 進学希望者数		前期選抜等			後期選抜			再募集			入学者 数	欠員
			定員との 差		募集定員	志願者数	合格内定者数	募集定員	志願者数	合格者数	募集定員	志願者数	合格者数		
津	普通	320	386	66				320	376	320				320	
	学校計	320	386	66				320	376	320				320	
津西	普通	240	186	▲ 54				240	181	240				240	
	国際科学	80	181	101	40	176	40	40	131	40				80	
	学校計	320	367	47	40	176	40	280	312	280				320	
津商業	ビジネス	200	196	▲ 4	100	178	108	92	93	92				201	
	情報システム	40	33	▲ 7	20	30	22	18	13	13	5	2	2	37	▲ 3
	学校計	240	229	▲ 11	120	208	130	110	106	105	5	2	2	238	▲ 3
津東	普通	240	266	26	60	217	62	178	201	178				240	
	学校計	240	266	26	60	217	62	178	201	178				240	
津工業	機械	120	132	12	60	125	66	54	55	54				121	
	電気	40	40	0	20	36	22	18	16	17	1	2	1	40	
	電子	40	49	9	20	55	22	18	20	18				40	
	建設工学	40	38	▲ 2	20	40	22	18	16	16	2	0	1	39	▲ 1
	学校計	240	259	19	120	256	132	108	107	105	3	2	2	240	▲ 1
久居	普通	160	174	14	60	154	53	107	109	107				160	
	学校計	160	174	14	60	154	53	107	109	107				160	
久居 農林	生物生産	40	35	▲ 5	20	32	22	36	25	25	11	3	3	72	▲ 8
	生物資源	40	33	▲ 7	20	31	22								
	環境情報	40	22	▲ 18	20	25	22	36	27	27	9	4	4	75	▲ 5
	環境土木	40	40	0	20	38	22								
	生活デザイン	80	70	▲ 10	40	69	44	36	34	34	2	0	0	78	▲ 2
	学校計	240	200	▲ 40	120	195	132	108	86	86	22	7	7	225	▲ 15
白山	普通	40	27	▲ 13	20	27	22	18	10	9	9	0	0	31	▲ 9
	情報 コミュニケーション	40	15	▲ 25	20	17	17	23	6	6	17	0	0	23	▲ 17
	学校計	80	42	▲ 38	40	44	39	41	16	15	26	0	0	54	▲ 26
地域内県立高校 計		1,840	1,923	83	560	1,250	588	1,252	1,313	1,196	56	11	11	1,797	▲ 45

※入学者数と合格者数の合計が一致しないことがあるのは追検査による合格者等を含むため

※「R 7. 12月進学希望者数」は、県内の国公立中学校 3 年生を対象に実施された調査結果

※久居農林:後期選抜はくくり募集（入学者を一括して募集し、入学後に所属する学科・コースを決定する）

津地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況【令和 7 年度：現高 2】

学校名	学科・コース	R 7 入学 定員	R 6. 12月 進学希望者数		前期選抜等			後期選抜			再募集			入学者 数	欠員
			定員との 差	募集定員	志願者数	合格内定者数	募集定員	志願者数	合格者数	募集定員	志願者数	合格者数			
津	普通	320	346	26				320	357	320				321	
	学校計	320	346	26				320	357	320				321	
津西	普通	240	195	▲ 45				240	173	240				240	
	国際科学	80	143	63	40	139	41	39	112	39				80	
	学校計	320	338	18	40	139	41	279	285	279				320	
津商業	ビジネス	200	248	48	100	216	108	92	125	92				200	
	情報システム	40	32	▲ 8	20	22	22	18	12	18				40	
	学校計	240	280	40	120	238	130	110	137	110				240	
津東	普通	240	324	84	60	178	62	178	244	178				240	
	学校計	240	324	84	60	178	62	178	244	178				240	
津工業	機械	120	99	▲ 21	60	92	66	54	58	54				120	
	電気	40	54	14	20	54	22	18	23	18				40	
	電子	40	27	▲ 13	20	24	22	18	16	18				40	
	建設工学	40	46	6	20	45	22	18	19	18				40	
	学校計	240	226	▲ 14	120	215	132	108	116	108				240	
久居	普通	200	194	▲ 6	60	153	66	134	138	134				200	
	学校計	200	194	▲ 6	60	153	66	134	138	134				200	
久居 農林	生物生産	40	50	10	20	45	22	36	40	36				81	
	生物資源	40	42	2	20	41	22								
	環境情報	40	20	▲ 20	20	21	21	37	35	37				80	
	環境土木	40	28	▲ 12	20	29	22								
	生活デザイン	80	83	3	40	80	44	36	42	36				80	
	学校計	240	223	▲ 17	120	216	131	109	117	109				241	
白山	普通	40	33	▲ 7	20	32	22	18	10	9	9	4	4	35	▲ 5
	情報 コミュニケーション	40	17	▲ 23	20	21	21	19	1	1	18	5	5	27	▲ 13
	学校計	80	50	▲ 30	40	53	43	37	11	10	27	9	9	62	▲ 18
地域内県立高校 計		1,880	1,981	101	560	1,192	605	1,275	1,405	1,248	27	9	9	1,864	▲ 18

※入学者数と合格者数の合計が一致しないことがあるのは追検査による合格者等を含むため

※「R 6. 12月進学希望者数」は、県内の国公立中学校 3 年生を対象に実施された調査結果

※久居農林:後期選抜はくくり募集（入学者を一括して募集し、入学後に所属する学科・コースを決定する）

津地域の中学校卒業生進路先の推移

卒業年	卒業 者数	津地域(全日制)											合計
		県立									私立		
		津	津西	津商業	津東	津工業	久居	久居 農林	白山	計	高田	セント ヨゼフ	
R8.3卒	2,537	203	199	103	165	117	127	146	33	1,093	438	68	1,599
		8.0%	7.8%	4.1%	6.5%	4.6%	5.0%	5.8%	1.3%	43.1%	17.3%	2.7%	63.0%
R7.3卒	2,527	212	239	104	152	112	155	147	38	1,159	403	59	1,621
		8.4%	9.5%	4.1%	6.0%	4.4%	6.1%	5.8%	1.5%	45.9%	15.9%	2.3%	64.1%
R6.3卒	2,636	222	198	111	175	115	152	154	41	1,168	445	73	1,686
		8.4%	7.5%	4.2%	6.6%	4.4%	5.8%	5.8%	1.6%	44.3%	16.9%	2.8%	64.0%

卒業年	津地域外(全日制)							定時制・通信制・その他					
	県立				県内 私立・ 高専	県外	合計	県内		県外		その他	合計
	鈴鹿亀山 地域	伊賀 地域	松阪 地域	その他 地域				定時制	通信制	定時制	通信制		
R8.3卒	147	8	75	97	243	42	612	81	134	1	65	45	326
	5.8%	0.3%	3.0%	3.8%	9.6%	1.7%	24.1%	3.2%	5.3%	0.0%	2.6%	1.8%	12.8%
R7.3卒	143	16	68	96	231	44	598	60	125	1	80	42	308
	5.7%	0.6%	2.7%	3.8%	9.1%	1.7%	23.7%	2.4%	4.9%	0.0%	3.2%	1.7%	12.2%
R6.3卒	162	19	72	104	227	37	621	82	110	0	88	49	329
	6.1%	0.7%	2.7%	3.9%	8.6%	1.4%	23.6%	3.1%	4.2%	0.0%	3.3%	1.9%	12.5%

津地域県立高校入学者に占める地域内中学校卒の割合(R8. 3卒)

	津	津西	津商業	津東	津工業	久居	久居 農林	白山	津地域 全日制計	みえ夢 学園	津地域 県立計
入学者	320	320	238	240	240	160	225	54	1,797	111	1,908
地域内 中学卒	203	199	103	165	117	127	146	33	1,093	76	1,169
	63.4%	62.2%	43.3%	68.8%	48.8%	79.4%	64.9%	61.1%	60.8%	68.5%	61.3%

【 R 8 . 3 中学校卒業生（現高 1）の津地域全日制高校以外への進路先】

* 津地域外（全日制） 合計612人

- ・ 鈴鹿亀山地域県立 (147人) 神戸 (39)、飯野 (36)、白子 (35)、亀山 (26)、稲生 (11)
- ・ 伊賀地域県立 (8人) 伊賀白鳳 (5)、名張 (1)、上野 (1)、あけぼの (1)
- ・ 松阪地域県立 (75人) 松阪 (33)、松阪工業 (17)、相可 (12)、松阪商業 (11)、
昂学園 (2)
- ・ その他地域県立 (97人) 四日市 (56)、四日市工業 (11)、四日市南 (5)、四日市農芸 (4)、
明野 (4)、宇治山田商業 (4)、伊勢 (2)、伊勢工業 (2)、
水産 (2)、四日市西 (1)、朝明 (1)、四日市中央工業 (1)、
四日市商業 (1)、川越 (1)、宇治山田 (1)、鳥羽 (1)
- ・ 県内私立・高専 (243人) 鈴鹿 (71)、三重 (68)、鈴鹿高専 (32)、皇学館 (19)、
近大高専 (13)、海星 (12)、伊勢学園 (11)、鳥羽商船 (7)、
暁 (6)、津田学園 (2)、四日市メリノール学院 (1)、桜丘 (1)
- ・ 県外 (42人) 県外国公立全日制 (6)、県外私立全日制 (36)

* 定時制・通信制・その他 合計326人

- ・ 県内定時制 (81人) みえ夢学園 (76)、北星 (4)、伊勢まなび (1)
- ・ 県内通信制 (134人) 徳風 (35)、大橋学園 (34)、一志学園 (22)、英心 (15)、
松阪 (10)、みえ大台おおぞら学園 (5)、英心桔梗が丘校 (4)、
代々木 (4)、皇學館 (3)、北星 (2)
- ・ 県外定時制 (1人)
- ・ 県外通信制 (65人)
- ・ その他 (45人) 海外進学・就職・その他 (28)、特別支援学校 (17)

令和 8 年度の協議について

1 はじめに

少子化が進行するとともに、予測困難なほど社会情勢が大きく変化する中、子どもたちを取り巻く課題はより複雑化・多様化し、学校のあり方や教育そのものの意義も問われています。こうした中、令和 4 年 3 月に、これからの時代を生きていく高校生に育む力や、本県の県立高等学校で進めていく教育など、これからの三重の高校教育のあり方を示す「県立高等学校活性化計画（令和 4 年度から 5 年間）」を策定しました。

津地域では、「県立高等学校活性化計画」に基づき、令和 5 年度に当協議会を設置し、県立高等学校の学びと配置のあり方についての検討を進めてきました。

2 協議の進め方

令和 7 年度に生まれた子どもたちが中学校を卒業する 15 年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえると、今後の津地域の県立高等学校の総学級数は段階的に減少していくことが見込まれます。協議会では、これからの時代に求められる学びの提供を実現するため、津地域の高等学校の学びと配置のあり方について、具体的な対応もあわせて検討を進め、その中で 1 学年 3 学級以下の高等学校については統合についての協議も行います。こうした検討・協議は、統合という結論ありきで協議するのではなく、地域の実情に応じ丁寧に進めます。

今年度の協議会では、昨年度に引き続き、地域の県立高等学校の現状と取り巻く状況、今後の地域の少子化の進行、他地域の協議会での協議内容等の情報を共有するとともに、今年度実施予定の地域の中学生・保護者へのアンケート結果をふまえ、15 年先を見据えた学びと配置のあり方について協議を進めます。

なお、令和 12 年度までに当地域の 1 学年あたりの総学級数が令和 8 年度と比べ 7 学級程度減少することが見込まれることから、その具体的な対応について、令和 9 年度までに協議会としての方向性をとりまとめることとします。

3 今後の協議会開催スケジュール

(1) 第 1 回協議会（本日 7 月 30 日）

- ・津地域の高等学校を取り巻く状況について
 - ・アンケートの内容と実施について
 - ・これからの津地域の県立高等学校の学びと配置のあり方について①
- ＜ 9 ～ 10 月にアンケート実施 ＞

(2) 第 2 回協議会（11 ～ 12 月頃）

- ・アンケートの結果について
- ・これからの津地域の県立高等学校の学びと配置のあり方について②
- ・令和 5 ～ 9 年度の協議のまとめ（学びの配置のあり方の方針）案について

(3) 第 3 回協議会（2 月頃）

- ・これからの津地域の県立高等学校の学びと配置のあり方について③
- ・令和 5 ～ 9 年度の協議のまとめ（学びの配置のあり方の方針）について

地域の中学生・保護者を対象としたアンケート調査の実施について

- 調 査 主 体：津地域高等学校活性化推進協議会
- 調 査 形 態
中学生：一人一台端末でL o G o フォームを活用した生徒アンケートを実施
保護者：市町教委から中学校、生徒を通じてアンケートの依頼を配付
Web による回答か、紙媒体による回答
- 調査対象者
中学生：津地域の国公立中学校に在籍する 2 年生(約 2,000 人)の生徒
保護者：津地域の国公立中学校に在籍する 2 年生(約 2,000 人)の保護者
津地域の国公立小学校に在籍する 5 年生(約 2,100 人)の保護者
- 調 査 期 間：令和 8 年 9 月頃

参考：令和 6 年度 伊賀地域の中学生・保護者を対象としたアンケート調査

- 調 査 主 体：伊賀地域高等学校活性化推進協議会
- 調 査 形 態：
中学生：一人一台端末の C B T システム利用による生徒アンケートを実施
保護者：市町教委から中学校、生徒を通じて紙媒体アンケートを配付
Web による回答か、紙媒体による回答
- 調査対象者
中学生：伊賀地域の公立中学 2 年生全員 (伊賀市・名張市)
保護者：同上の保護者、伊賀地域の公立小学校に在籍する 5 年生の保護者
- 調 査 期 間：令和 6 年 9 月中旬～10 月 25 日 (金)
- 回 答 者 数
中学生：1,076 人／1,307 人 (回収率約 82.3%)
保護者：1,096 人／2,604 人 (回収率約 42.1%)
- 多言語対応：ポルトガル語・スペイン語・タガログ語・ビザイヤ語

こうこう しょうらい かん しつもんようし
高校や将来に関するアンケート《質問用紙》

つちいき こっこうりつちゅうがっこう ねんせい
 津地域の**国公立中学校**2年生のみなさんへ

○ 二次元コードを読み取り、Webアンケートに回答してください。

つちいきこうとうがっこうかっせい か すいしんきょう ぎ かい
 津地域高等学校活性化推進協議会



Web アンケート

1 右枠内のIDを書いてください。

ID: TS12345

2 右枠内のPWを書いてください。

PW: 0000

3 あなたは、どの地域に住んでいますか。次の中から1つ選んでください。

- | | | | |
|--------|--------|---------|--------|
| ① 旧津市 | ② 旧久居市 | ③ 旧河芸町 | ④ 旧芸濃町 |
| ⑤ 旧美里村 | ⑥ 旧安濃町 | ⑦ 旧香良洲町 | ⑧ 旧一志町 |
| ⑨ 旧白山町 | ⑩ 旧美杉村 | ⑪ その他 | |

4 あなたの学校の中学2年生は、全体で何人ですか。次の中から1つ選んでください。

- | | | | |
|------------|------------|----------|-----------|
| ① 20人以下 | ② 21～40人 | ③ 41～80人 | ④ 81～120人 |
| ⑤ 121～160人 | ⑥ 161～240人 | ⑦ 241人以上 | |

5 あなたは、中学校卒業後どのような進路を希望しますか。次の中から1つ選んでください。

- | | |
|------------------|-------------------|
| ① 高校等へ進学（設問6以降へ） | ② 就職・その他（設問14以降へ） |
|------------------|-------------------|

く以降の6～13の質問は、あなたの行きたい理想の高校を想像して答えてください。＞

→ 実際にはない高校でも構いません

6 あなたは、高校を選ぶとき何を重視しますか。次の中から6つ以内で選んでください。

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| ① 学びたい学科やコースがある | ② 確かな学力を身につける授業が充実している |
| ③ 専門的な知識や技能が習得できる（資格取得を含む） | |
| ④ 自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる | |
| ⑤ 地域と連携した活動が充実している | ⑥ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している |
| ⑦ 入りたい部活動がある・部活動が活発に行われている | |
| ⑧ 友だちや先輩、先生などとの多くの出会いがある | |
| ⑨ 一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる | |
| ⑩ 通学がしやすい・学校までの距離が短い | ⑪ 学校の雰囲気やイメージがよい |
| ⑫ 施設や設備が充実している | ⑬ 進学、就職の実績がある |
| ⑭ 自分の適性や能力にあっている | ⑮ 先生や保護者、友だちなどの周囲の人の意見 |
| ⑯ 学費などの経費負担が少ない | ⑰ その他（質問7の自由記述へ） |

7 質問6で「⑰ その他」を選んだ人は、重視する点を書いてください。

8 あなたは、高校にどのような教育を期待しますか。次の中から5つ以内で選んでください。

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------|
| ① 自ら学び続ける力が身につく教育 | |
| ② 自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育 | |
| ③ 多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育 | |
| ④ 地域を題材として学ぶ教育 | ⑤ 大学や企業などと連携・協働して学ぶ教育 |
| ⑥ 人権に対する意識が高まる教育 | ⑦ 基本的な知識が身につく教育 |
| ⑧ ICTを積極的に活用する教育 | ⑨ 広く世界で活躍できる力が身につく教育 |
| ⑩ 社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育 | |

- ⑪ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育
 ⑫ 特別活動や部活動などを通じて豊かな人間性が身につく教育
 ⑬ 一人ひとりの状況に応じて適切な支援が受けられる教育
 ⑭ その他（質問9の自由記述へ）

9 質問8で「⑭ その他」を選んだ人は、期待することを書いてください。

10 あなたの理想の高校は、1学年あたりどのくらいの学級数（人数）ですか。質問6の「高校を選ぶときに重視する点」と質問8の「高校に期待する教育」の回答もふまえ、次の中から1つ選んでください。 ※高校の学級は、1学級40人を基本としています。

- ① 1学級（40人） ② 2学級～3学級（80～120人）
 ③ 4学級～6学級（160～240人） ④ 7学級以上（280人～）
 ⑤ 学級数にはこだわらない

11 高校への通学には、片道どの程度の時間までかけることができますか。次の中から1つ選んでください。

- ① 30分以内まで ② 60分以内まで ③ 90分以内まで
 ④ 120分以内まで ⑤ 121分以上

12 あなたが行きたい課程はどれですか。次の中から1つ選んでください。

- ① 全日制課程 ② 定時制課程 ③ 通信制課程
 ④ フレキシブル ⑤ まだ決めていない、わからない

全日制課程	中学校等と同じように昼間の時間帯に授業を行う課程
定時制課程	夜間その他特別な時間帯に授業を行う課程（昼間部が設置されている学校もあります）
通信制課程	自宅で教科書や学習書を使って勉強し、レポートを提出することや、学校でのスクーリング（面接指導）に出席することにより学習する課程
フレキシブル	全日制課程に在籍しながら、運携する他校の定時制・通信制の授業も履修できる新しい学びのスタイル

13 あなたが行きたい学科はどれですか。次の中から1つ選んでください。

- ① 普通科、専門学科（普通科系） ② 専門学科（職業系） ③ 総合学科
 ④ まだ決めていない、わからない

普通科	学習の中心が普通教科に置かれている。中学校等で学習したことを基礎にして、さらに幅広い一般的な教養を身につけることをねらいとする。
専門学科	それぞれの学科に関する専門的な知識・技術を身につけることをねらいとする。
・職業系	農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉などの職業教育を主とする学科
・普通科系	理数、体育、英語、国際などの職業系以外の専門教育を施す学科
総合学科	普通科・専門学科両方の性格を持つ学科。必修科目以外は、自分の進路希望や興味・関心に基づいて、科目を選択して学ぶことができる。

14 将来、あなたはどこで生活したり、働いたりしたいですか。次の中から1つ選んでください。

- ① 地元（津市） ② 津市以外の三重県内 ③ 県外 ④ 海外
 ⑤ 一度は地元を離れても、いつかは戻りたい ⑥ まだ決まっていない、わからない

15 質問14でそのように答えた理由を書いてください。

16 「高校や将来に関するアンケート」の内容に関して、考えや思いがあれば、書いてください。

「津地域の県立高校に関するアンケート」について

津地域の国公立 中学校 2 年生・国公立 小学校 5 年生の保護者のみなさんへ

令和 8 年●月 津地域高等学校活性化推進 協議会

本協議会では、当地域の県立高校の活性化について協議しており、その中で地域の生徒・保護者の方の意見を参考に協議を進めたいと考えています。つきましては、以下の資料を参照のうえ、アンケートにご協力いただきますようお願いいたします。（当地域の公立中学校2年生を対象に、別途、アンケートを実施しています。）

【資料】

- グローバル化やデジタル化などの社会の大きな変化、少子・高齢化のさらなる進行、教育的ニーズの多様化が進む中、令和4年3月に策定した「県立高等学校活性化計画」では、これからの子どもたちにとって魅力ある県立高等学校のあり方や活性化について検討し、実現していくこととしています。
- その中で、15年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえると、これからの時代に求められる学びを提供していくには、現在の県立高校の配置を続けていくことは難しい状況であるため、各地域の活性化協議会において、高等学校の学びと配置のあり方についての検討を丁寧に進めるとしており、津地域においては、本協議会で検討を進めています。
- 令和8年度の津地域の全日制県立高校1年生の総学級数（定員）は、8校で46学級1,840人となっています。
 - ・津（8学級320人）
 - ・津西（8学級320人）
 - ・津商業（6学級240人）
 - ・津東（6学級240人）
 - ・津工業（6学級240人）
 - ・久居（4学級160人）
 - ・久居農林（6学級240人）
 - ・白山（2学級80人）
- ※津地域には、「みえ夢学園高校」（定時制：午前の部40人、午後の部40人、夜間部40人）もあります。
- 令和8年3月から22年3月までの中学校卒業生数の予測をもとに、進路状況や他地域との流入などを考慮して、津地域の全日制県立高校の学級数を予測すると、15年先の令和22年度にはおよそ22～26学級程度となり、令和8年度の46学級と比べて20～24学級減少することが見込まれます。

	令和8年3月 (現 高 1)	令和12年3月 (現 小 6)	令和22年3月 (令和6年度生まれ)
中学校卒業生数 (予測値)	2,537人	2,296人	1,531人
そうがきゅうすう ぜんにちせい 総学級数 (全日制)	46学級	39学級程度	22～26学級程度

(参 考)

これまでの協議会の概要や配付資料については、三重県Webページをご覧ください。

三重の教育「各地域における高等学校活性化推進協議会」Web ページ ⇒

(<https://www.pref.mie.lg.jp/KYOKAI/HP/kasseika/19674018868.htm>)



アンケートの実施について

○ 調査対象

- ・津地域の国公立中学校2年生の保護者及び公立小学校5年生の保護者
※両方の学年にお子さんがいる場合や、同じ学年に複数のお子さんがいる場合は、1つの回答としてください。

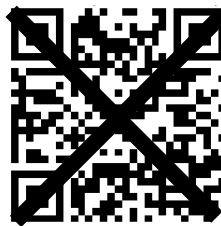
○ 調査方法

- ・Webアンケート（「LoGo（ロゴ）フォーム〈県の電子申請・届出システム〉」）による回答。
※Webアンケートにより回答した場合は、回答用紙の提出は不要です。
※Webアンケートによる回答がむずかしい場合は、回答用紙に記入してください。
- ・パソコン、スマートフォンなどから下記のアドレスへアクセスするか、「二次元コード」を読み取り、Webアンケートに回答してください。

○アドレス

<https://logoform.jp/f/>●●●

○二次元コード



○ 所要時間（目安）

- ・8分程度

○ Webアンケートによる回答・回答用紙の提出期限

- ・令和8年●月●日（●曜日）まで
※回答用紙を利用する場合は、在籍する小中学校へ提出してください。

○ 注意点

- ・Webアンケートの回答送信後の修正はできません。回答内容をよくご確認の上、送信してください。

○ その他

- ・ご協力いただきました調査データは調査目的以外には使用いたしません。
- ・当アンケートにかかるご質問等がございましたら、下記までご連絡ください。
(事務担当) 三重県教育委員会事務局 教育政策課 059-224-2951（平日9:00～17:00）

※「LoGo フォーム」は、提供元サービスの名称です。

津地域の県立高校に関するアンケート《質問用紙》

資料9④
保護者

- 二次元コードを読み取り、Webアンケートに回答してください。
- Webアンケートによる回答がむずかしい場合は、回答用紙をご利用ください。



Web アンケート

1 右枠内のIDをお書きください。

ID: TP12345

2 右枠内のPWをお書きください。

PW: 0000

3 あなたは、どの地域に住んでいますか。次の中から1つ選んでください。

- | | | | |
|--------|--------|---------|--------|
| ① 旧津市 | ② 旧久居市 | ③ 旧河芸町 | ④ 旧芸濃町 |
| ⑤ 旧美里村 | ⑥ 旧安濃町 | ⑦ 旧香良洲町 | ⑧ 旧一志町 |
| ⑨ 旧白山町 | ⑩ 旧美杉村 | ⑪ その他 | |

4 あなたのお子さんはどちらの学年ですか。次の中から1つ選んでください。

- ① 中学2年生 ② 小学5年生 ③ 両方

5 あなたのお子さんが所属する学年は全体で何人ですか。次の中から1つ選んでください。

※ 両方の学年にいる場合は、上の学年でお答えください。

- | | | | |
|------------|------------|----------|-----------|
| ① 20人以下 | ② 21～40人 | ③ 41～80人 | ④ 81～120人 |
| ⑤ 121～160人 | ⑥ 161～240人 | ⑦ 241人以上 | |

6 お子さんが高校を選ぶときには、何を重視してもらいたいですか。次の中から6つ以内で選んでください。

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| ① 学びたい学科やコースがある | ② 確かな学力を身につける授業が充実している |
| ③ 専門的な知識や技能が習得できる（資格取得を含む） | |
| ④ 自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる | |
| ⑤ 地域と連携した活動が充実している | ⑥ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している |
| ⑦ 入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている | |
| ⑧ 友だちや先輩、先生などとの多くの出会いがある | |
| ⑨ 一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる | |
| ⑩ 通学がしやすい・学校までの距離が短い | ⑪ 学校の雰囲気やイメージがよい |
| ⑫ 施設や設備が充実している | ⑬ 進学、就職の実績がある |
| ⑭ 自分の適性や能力にあっている | ⑮ 先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見 |
| ⑯ 学費などの経費負担が少ない | ⑰ その他（質問7の自由記述へ） |

7 質問6で「⑰ その他」を選んだ方は、重視してもらいたい点をお書きください。

8 お子さんが入学する高校には、どのような教育を期待しますか。次の中から5つ以内で選んでください。

- ① 自ら学び続ける力が身につく教育
- ② 自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育
- ③ 多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育
- ④ 地域を題材として学ぶ教育
- ⑤ 大学や企業等と連携・協働して学ぶ教育
- ⑥ 人権に対する意識が高まる教育
- ⑦ 基本的な知識が身につく教育
- ⑧ ICTを積極的に活用する教育
- ⑨ 広く世界で活躍できる力が身につく教育
- ⑩ 社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育
- ⑪ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育
- ⑫ 特別活動や部活動などを通じて豊かな人間性が身につく教育
- ⑬ 一人ひとりの状況に応じて適切な支援が受けられる教育
- ⑭ その他(質問9の自由記述へ)

9 質問8で「⑭ その他」を選んだ方は、期待することをお書きください。

10 お子さんには、1学年あたりのどれくらいの学級数(人数)の高校に進学してもらいたいですか。質問6の「高校を選ぶときに重視する点」と質問8の「高校に期待する教育」の回答もふまえ、次の中から1つ選んでください。 ※高校の学級は、1学級40人を基本としています。

- ① 1学級(40人)
- ② 2学級～3学級(80～120人)
- ③ 4学級～6学級(160～240人)
- ④ 7学級以上(280人～)
- ⑤ 学級数にはこだわらない

11 高校への通学(片道)にかけてもよいと思う時間は、どの程度までですか。次の中から1つ選んでください。

- ① 30分以内まで
- ② 60分以内まで
- ③ 90分以内まで
- ④ 120分以内まで
- ⑤ 121分以上

12 将来(中学・高校・大学等の学校を卒業後)、お子さんにはどこで生活したり、働いたりしてほしいと考えますか。次の中から1つ選んでください。

- ① 地元(津市)
- ② 津市以外の三重県内
- ③ 県外
- ④ 海外
- ⑤ 一度は地元を離れても、いつかは戻ってきてほしい
- ⑥ 本人の希望次第
- ⑦ 特に考えはない

13 現在、津地域には全日制県立高校が8校配置されており、1学年あたりの学級数は合計46学級です。今後、津地域でも少子化が進み、15年先の令和22年度には合計22～26学級程度になることが見込まれる中、8校を維持すると各学校の小規模化が進むことから、本協議会では今後の津地域の県立高校の配置のあり方について検討を進めています。このことについて、あなたの意見に最も近いものはどれですか。次の中から1つ選んでください。

- ① 統合は避けるべき
- ② 一定の統合は避けられない
- ③ 積極的に統合を進めるべき

14 質問12の①～③を選んだ理由や、今後の津地域の県立高校の配置のあり方に関してのご意見を聞かせください。

15 今後の津地域の県立高校の学びのあり方について、ご意見があれば聞かせください。

※ありがとうございました。

津地域の中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)

令和8年5月1日 教育政策課調べ

津地域 (津市)	R 5.3 卒業	R 6.3 卒業	R 7.3 卒業	R 8.3 卒業	R 9.3 現中3	R 10.3 現中2	R 11.3 現中1	R 12.3 現小6	R 13.3 現小5	R 14.3 現小4	R 15.3 現小3	R 16.3 現小2	R 17.3 現小1
	卒業生数	2,655	2,636	2,527	2,537	2,454	2,372	2,296	2,273	2,215	2,180	2,029	1,931
	前年度対比 R8.3対比		-19	-109	10	-83	-81	-76	-23	-58	-35	-151	-98
					-83	-84	-165	-241	-264	-322	-357	-508	-606

【参考】

鈴鹿地域 (鈴鹿市・亀山市)	卒業生数	2,221	2,413	2,268	2,267	2,223	2,091	2,090	2,086	2,052	1,869	1,770	1,810	1,714
	前年度対比		192	-145	-1	-44	-132	-1	-4	-34	-183	-99	40	-96
	R8.3対比					-44	-176	-177	-181	-215	-398	-497	-457	-553
伊賀地域 (伊賀市・名張市)	卒業生数	1,421	1,408	1,451	1,366	1,389	1,357	1,291	1,209	1,184	1,148	1,059	1,003	926
	前年度対比		-13	43	-85	23	-32	-66	-82	-25	-36	-89	-56	-77
	R8.3対比					23	-9	-75	-157	-182	-218	-307	-363	-440
松阪市	卒業生数	1,457	1,467	1,446	1,390	1,441	1,331	1,226	1,200	1,249	1,213	1,096	1,143	999
	前年度対比		10	-21	-56	51	-110	-105	-26	49	-36	-117	47	-144
	R8.3対比					51	-59	-164	-190	-141	-177	-294	-247	-391
県内合計	卒業生数	16,055	15,891	15,718	15,511	15,303	14,834	14,377	14,011	14,032	13,398	12,753	12,420	11,764
	前年度対比		-164	-173	-207	-208	-469	-457	-366	21	-634	-645	-333	-656
	R8.3対比					-208	-677	-1,134	-1,500	-1,479	-2,113	-2,758	-3,091	-3,747

【県立高校（全日制）】

津地域	入学定員	1,920	1,920	1,880	1,840	1,720
	学級数（募集）	48	48	47	46	43
	欠員数※1	11	0	18	45	—
県内合計	入学定員	10,640	10,440	10,240	10,000	9,760
	学級数（募集）※2	268	263	258	252	246
	欠員数※1	342	225	186	411	—

※1 学科・コースごとの欠員のみを積み上げた数値

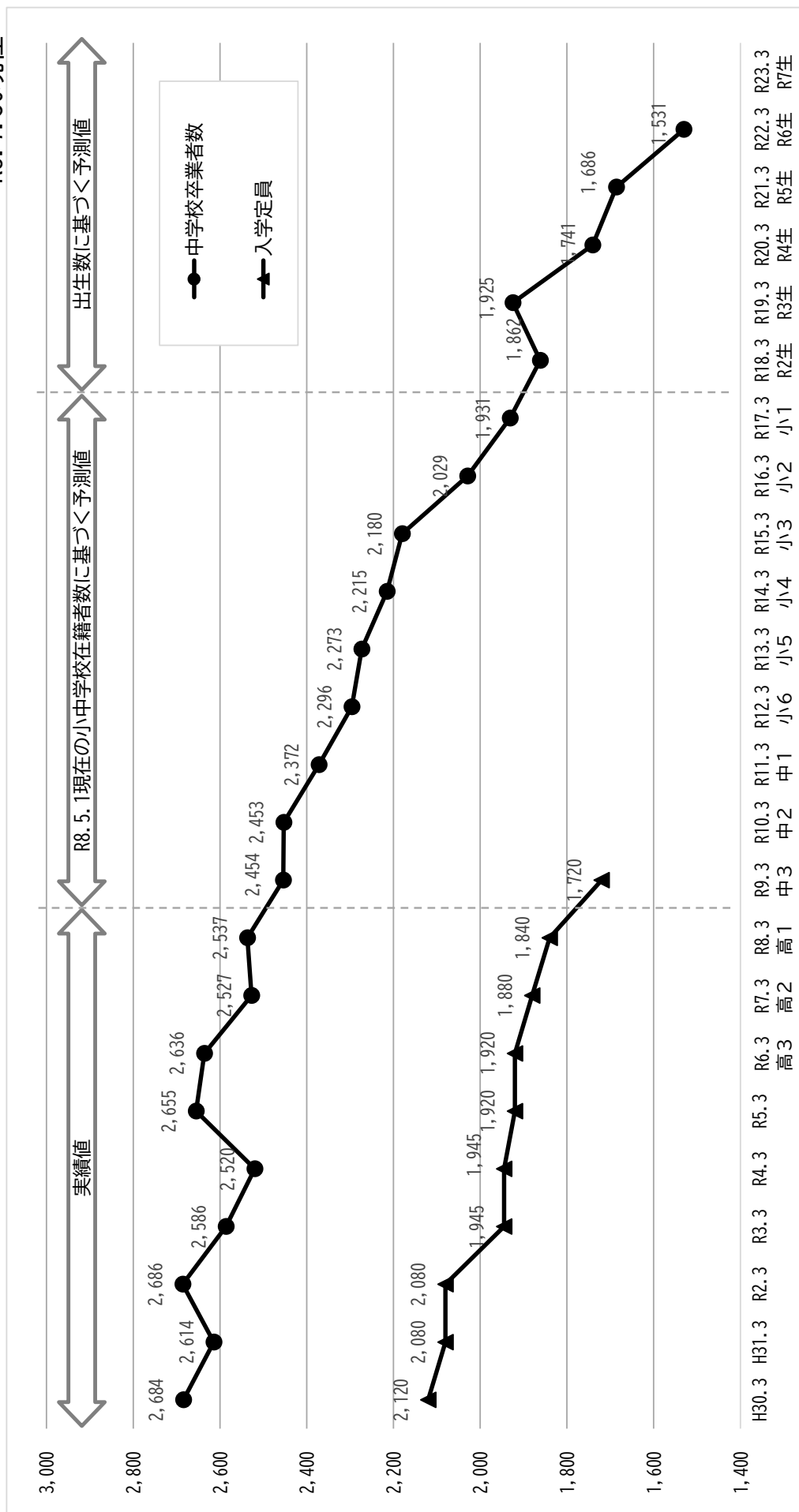
※2 伊賀白鳳高校は定員240人6学級規模を7学級、尾鷲高校は定員160人4学級規模を5学級として編制

【私立高校（全日制）】

【平成30年度（令和元年度）】						
高田	入学定員	565	560	560	560	560
セントヨゼフ	入学定員	130	130	125	125	125

津地域の中学校卒業者と県立高等学校入学定員（全日制）の推移

R8. 7. 30現在



【津地域の出生数と予測値】

	H29年度生	H30年度生	R元年度生	R2年度生	R3年度生	R4年度生	R5年度生	R6年度生	R7年度生
	現小3	現小2	現小1	5～6歳	4～5歳	3～4歳	2～3歳	1～2歳	0～1歳
出生数	2,045	2,020	1,868	1,770	1,830	1,655	1,603	1,455	
予測値	2,180	2,029	1,931	1,862	1,925	1,741	1,686	1,531	

※出生数に基づく予測値（R2～R6年度生まれ）は、昨年度時点のデータに基づいて作成しています。

令和 23 年度までの津地域の県立高等学校（全日制）の総学級数について

R8. 7. 30 現在

令和 9 年度 (現中 3) 地域の中学校卒業予定者数 2, 454 人	令和 11 年度 (現中 1) 地域の中学校卒業予定者数 2, 372 人 (R9 年度比 ▲82)	令和 12 年度 (現小 6) 地域の中学校卒業予定者数 2, 296 人 (R9 年度比 ▲158)	令和 17 年度 (現小 1) 地域の中学校卒業予定者数 1, 931 人 (R9 年度比 ▲523)	令和 22 年度 地域の中学校卒業予定者数 1, 531 人 (R9 年度比 ▲923)
--	--	---	---	--

43 学級

津高校	(普 8)
津西高校	(普 7)
津商業高校	(専 5)
津東高校	(普 6)
津工業高校	(専 6)
久居高校	(普 4)
久居農林高校	(専 5)
白山高校	(普 1 ・ 専 1)

41 学級程度

津地域の県立高等学校
(全日制)

39 学級程度

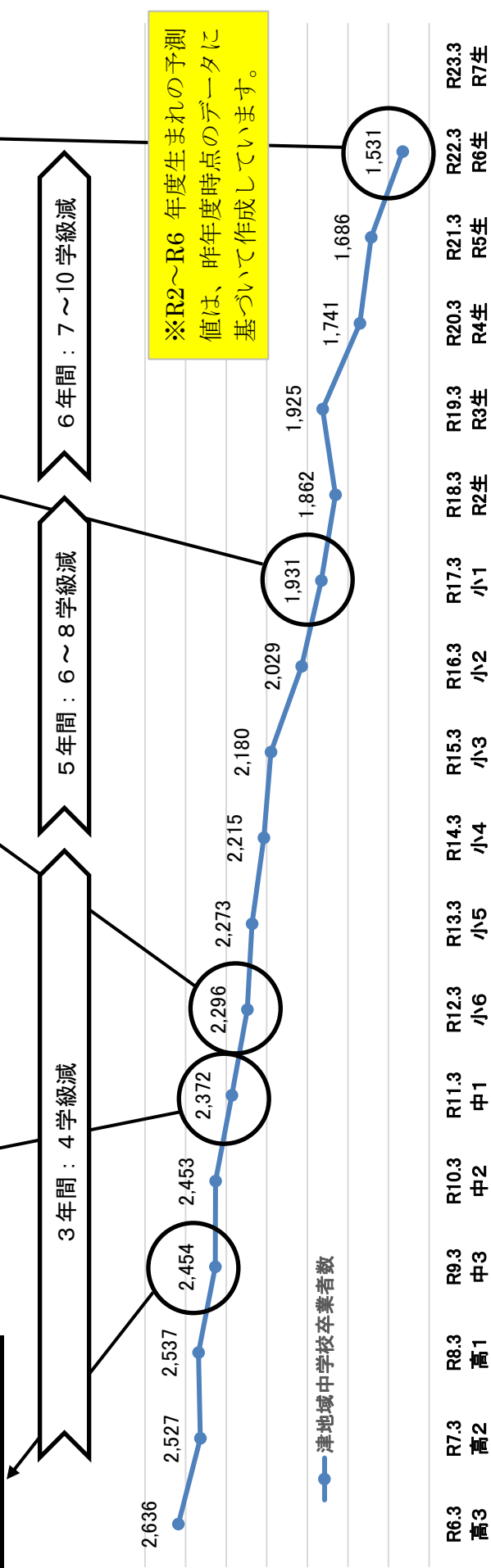
津地域の県立高等学校
(全日制)
令和 9 年度をめぐり
学級減への対応方針
を決定

31 ～ 33 学級程度

津地域の県立高等学校
(全日制)

22 ～ 26 学級程度

津地域の県立高等学校
(全日制)



学校規模と教育環境について

1 教員数

(1) 教職員定数

各学校に配置される教職員定数の標準は、法律により、入学定員（÷学級数）に応じて定められています。

全日制普通科の場合

1 学年 あたりの 学級数	1 学級	2 学級	3 学級	4 学級	5 学級	6 学級	7 学級	8 学級
教員数 (人)	8	15	23	29	35	43	48	52
差		7	8	6	6	8	5	4

※ 校長、教頭、養護教諭、実習助手、事務職員を除く

※ 上記以外に学科による加算や加配教員、非常勤講師等の配置があります

※ あくまで標準であり、すべての学校がこの人数に一致するわけではありません

(2) 学級数別の各教科担当教員の配置シミュレーション（全日制普通科）

1 学年 あたりの 学級数	1 学級	2 学級	3 学級	4 学級	5 学級	6 学級	7 学級	8 学級
計	8	15	23	29	35	43	48	52
国語	1	2	4	5	5	7	7	8
数学	2	3	4	5	6	7	8	9
英語	2	3	4	5	6	7	8	9
社会	1	2	3	4	5	6	6	7
理科	1	2	3	4	5	6	7	8
保体	1	2	3	3	4	5	6	6
芸術	0	1	1	1	2	3	3	3
家庭	0	0	1	1	1	1	1	1
情報	0	0	0	1	1	1	1	1

※ 1～7 学級の教科別教員数については、県内の 8 学級の高校の教科別教員数を参考に算出

※ 国語・数学・英語は学年あたりの配置人数が 1、2、3 人で色分け

※ 社会は地歴科と公民科から構成しており、地歴科では日本史、世界史、地理を専門とする教員を 5 人、公民科では 1 人を配置できる 6 人と、地歴 3 人、公民 1 人を配置できる 4 人で色分け

※ 理科は物理、化学、生物を専門とする教員が 2 人ずつ配置できる 6 人と、1 人ずつの 3 人で色分け

※ 保健体育は学年あたりの人数が 2 人、1 人で色分け

※ 芸術は音楽、美術、書道の教員が 1 人ずつ配置できる 3 人で色分け

※ この表はシミュレーションであり、実際は学校ごとに教育課程などが異なるため、教員数の合計、教科別の人数ともこのとおりとは限りません。

2 部活動

R4学校規模別部活動設置状況（男子）マネージャー含む

第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	硬式野球	53	98.1%	1,393	2	7	2	8	12	7	8	7
2	バスケットボール	47	87.0%	918	1	6	2	8	10	5	8	7
3	陸上競技	46	85.2%	824	2	4	2	7	10	6	8	7
4	卓球	42	77.8%	682	1	4	2	5	10	5	8	7
5	バドミントン	41	75.9%	1,130	0	6	0	6	11	4	7	7
6	サッカー	39	72.2%	1,515	0	2	2	5	10	5	8	7
7	テニス	34	63.0%	513	0	2	2	4	8	4	8	6
8	バレーボール	33	61.1%	627	1	2	0	5	7	4	7	7
9	ソフトテニス	31	57.4%	518	1	4	0	6	5	4	5	6
10	剣道	27	50.0%	177	0	0	1	4	5	5	5	7
11	ハンドボール	20	37.0%	472	0	0	0	1	4	4	5	6
12	柔道	20	37.0%	146	1	1	0	2	8	1	3	4
13	弓道	19	35.2%	348	0	0	1	4	5	3	5	1
14	山岳（ワグ・フオーグ・ル）	12	22.2%	148	0	0	0	2	1	2	3	4
15	ラグビー	10	18.5%	207	0	0	0	1	3	1	2	3
16	水泳	10	18.5%	87	0	0	0	3	1	0	2	4
17	ダンス	9	16.7%	39	0	0	0	0	4	1	2	2
18	レスリング	7	13.0%	53	0	1	0	1	4	0	1	0
19	軟式野球	6	11.1%	104	0	0	0	0	1	1	2	2
20												
設置部活動の種類（～No.19）					7	11	8	18	19	17	19	18
設置部活動の全種類					7	15	9	22	28	23	26	22

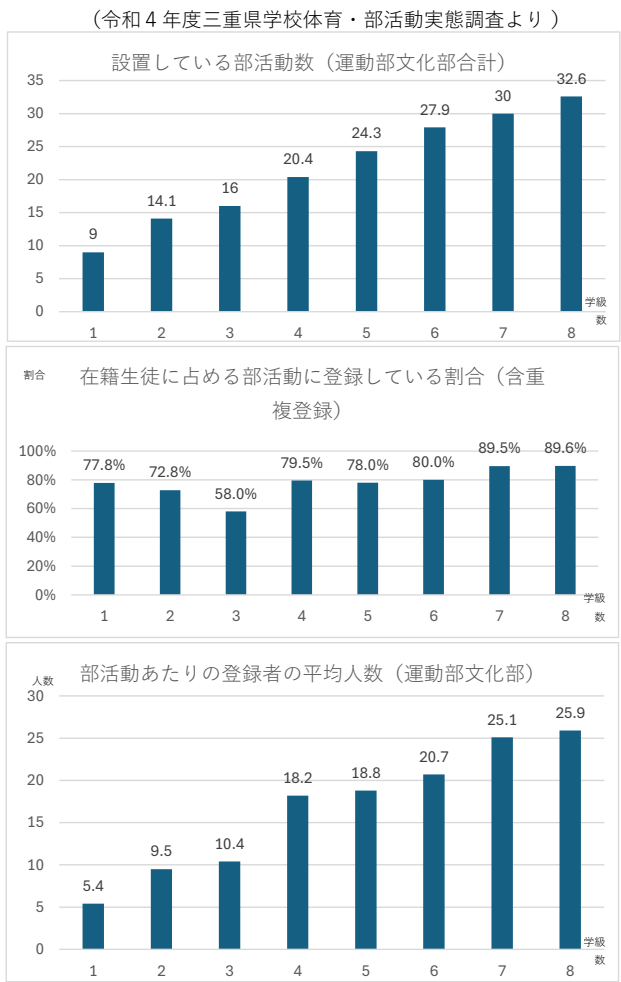
R4学校規模別部活動設置状況（女子）マネージャー含む

第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	陸上競技	41	75.9%	486	1	3	1	6	9	6	8	7
2	バドミントン	39	72.2%	913	0	5	0	7	10	4	6	7
3	バスケットボール	39	72.2%	575	2	2	0	5	10	6	7	7
4	卓球	37	68.5%	334	0	1	2	5	8	6	8	7
5	バレーボール	34	63.0%	533	1	1	0	5	7	6	7	7
6	テニス	29	53.7%	316	0	1	1	3	5	6	7	6
7	ソフトテニス	28	51.9%	279	1	3	0	5	5	5	4	5
8	剣道	25	46.3%	135	0	0	1	2	4	5	6	7
9	弓道	17	31.5%	334	0	0	1	3	5	2	5	1
10	ハンドボール	15	27.8%	255	0	0	0	0	3	3	4	5
11	ダンス	12	22.2%	403	0	0	0	0	5	1	3	3
12	ソフトボール	12	22.2%	188	0	0	0	2	3	3	2	2
13	柔道	12	22.2%	38	0	0	0	1	4	2	1	4
14	水泳	10	18.5%	54	0	0	0	3	0	1	2	4
15	硬式野球	9	16.7%	24	0	1	0	1	3	3	0	1
16	サッカー	7	13.0%	93	0	1	0	0	2	0	1	3
17	体操	5	9.3%	66	0	0	0	1	1	0	1	2
18	空手道	5	9.3%	57	0	0	0	0	0	1	2	2
19	山岳（ワグ・フオーグ・ル）	5	9.3%	31	0	0	0	1	1	0	0	3
20												
設置部活動の種類（～No.19）					4	9	5	15	17	16	17	19
設置部活動の全種類					4	11	6	17	25	21	25	21

R4学校規模別部活動設置状況（文化部）

第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	美術	47	87.0%	634	0	5	2	8	10	7	8	7
2	吹奏楽	44	81.5%	1,347	1	2	1	8	11	6	8	7
3	茶道	38	70.4%	536	1	4	2	5	8	5	7	6
4	書道	36	66.7%	351	0	2	2	5	9	5	6	7
5	放送	31	57.4%	308	0	1	0	4	9	5	7	5
6	写真	24	44.4%	586	0	2	0	4	6	6	4	2
7	家庭	19	35.2%	310	2	3	2	3	3	2	2	2
8	演劇	19	35.2%	214	0	0	0	2	5	3	4	5
9	ボランティア	13	24.1%	205	0	3	1	1	3	3	1	1
10	華道	13	24.1%	136	0	1	1	2	4	3	2	0
11	コンピュータ	11	20.4%	147	1	1	0	1	3	2	2	1
12	文芸	11	20.4%	106	0	1	0	0	0	2	3	5
13	アニメ・漫画	10	18.5%	197	0	1	0	0	3	2	3	1
14	人権サークル	10	18.5%	44	0	0	1	2	3	2	2	0
15	調理	9	16.7%	236	0	0	0	1	2	1	2	3
16	英語	9	16.7%	101	0	2	0	1	2	0	1	3
17	合唱	9	16.7%	64	0	0	0	1	2	1	4	1
18	新聞	8	14.8%	67	0	0	0	0	3	2	2	1
19	邦楽	7	13.0%	91	0	1	0	0	1	0	0	5
20	自然科学	7	13.0%	47	0	0	0	1	1	0	2	3
設置部活動の種類（～No.20）					4	14	8	16	19	17	19	18
設置部活動の全種類					4	19	9	30	37	33	32	31

○1学年あたりの学級数別の部活動の状況



津地域の県立高等学校における学びと配置のあり方についての協議

協議会を設置した令和5年度から7年度までの協議を、次のとおりまとめました。

(○：R5第1回 ◇：R6第1回 ▽：R6第2回 ●：R7第1回 ◆：R7第2回)

1 津地域において実現したい学びと育みたい力

- 大手企業への就職を希望する生徒や保護者が多いが、中小企業で働くことの魅力や地元の優良企業について知ってもらい、地域の高校を卒業した生徒が、地元企業へ就職してもらえるような環境をつくっていききたい。
- ◇ 高校入学後の満足度を高めるためには、子どもたちが高校での学びや卒業後の進路を見据えて学校を選択する力が必要である。そのためには、地域の小中学校と高校の学びを連携させ、子どもたちが小さいころから将来を考え、自らの進路を自らが選択する力を身につけていくことが大切である。
- ◇ 当地域の普通科の特色化・魅力化について協議するのであれば、生徒が主体的に課題解決に取り組む探究的な学びを中心に据えた学科の設置を考えてはどうか。
- ◇ 職業学科だけではなく、就職者が多い普通科においても、仕事と結びつくような学びを取り入れてもらいたい。
- ▽ 近年は探究の学びを生かして大学へ進学する生徒もいるなど、大学入試も変わってきており、今後は普通科において探究学習のニーズはますます高まるのではないかと。
- ▽ 上野高校や川越高校のような学際領域学科ではなく、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために、地域社会が有する課題や魅力に着目した学びに取り組む地域社会学科の設置を検討してはどうか。
- これからの高校教育では地域の方とのつながりがより重要となる。地域とともにある高校という姿を見せながら、地域としっかりと対話していくことが大切である。
- ◆ 高校生が小中学校で探究学習の発表や交流を行うことにより、小中学生が地域の魅力や探究学習のよさを知る機会になるとともに、各高校の特色を知ることによって進路選択にもよい影響を及ぼしている。今後も小中高のつながりは大切にしていきたい。

- ・ 自らの進路を自らが選択する力
- ・ 生徒が主体的に課題解決に取り組む探究的な学び
- ・ 地域が有する課題や魅力に着目した学び
- ・ 地域の小中学校と高校が連携した学び
- ・ 学科に関わらず職業と結びつくような学び
- ・ 地元地域で活躍する人材の育成
- ・ 地域とともにある高校

2 津地域の高校の学びと配置のあり方を考えるうえで大切にしたいこと

(1) 学科について

- 津地域には、旧津市内に私立高校を含め普通科の高校が多く設置されている。中学校卒業生数が減少する中で、子どもたちの多様なニーズに応じていくためには、専門学科の選択肢を維持するとともに、当地域における普通科の配置のあり方や特色化・魅力化についての議論が必要である。
- ◇ 中学生が高校選択を考える際に、地域に学びの選択肢が多い状況をつくることが大切である。
- ◇ 学級数が減ることで、子どもたちの進路選択の幅が狭まることのないよう、県独自の予算で教員を配置してほしい。とはいえ、前回の議論のとおり、普通科の学級数をある程度減じながら、専門学科を維持していく方向性は妥当であると考えている。
- ◇ 例えば、e スポーツなど特色ある学科を設置し、学校の魅力を高めることで、県外や他地域からの入学者数を増やせるのではないかな。
- ◇ 白山高校に林業科を設置するなど、地域産業と結びついた学科やコースを設置すれば、地域の活性化にもつながるのではないかな。
- ▽ 白山高校について、総合学科への改編や特色ある部活動の設置により活性化を図れば、志願者増につながるのではないかな。
- ▽ 将来の目標が定まっていない中学生も多いことから、選択肢の幅を広げるためにも、単に生徒数の減少にあわせて学校数を減らすのではなく、多様な学習ニーズに対応できる総合学科の設置を検討してもよいのではないかな。
- ◆ 白山高校を残すのであれば「立地を生かした林業に関する学び」など特色を持たせてはどうか。また、当地域には普通科が多いとのことだが、進学ニーズに応える高校だけでなく、就職に特化した普通科があってもよいのではないかな。
- ◆ 中学生が入学したいと思える魅力ある高校をつくるためにも、普通科と専門学科の併置も含め、農業・工業・商業などの学びをバランスよく配置し、中学校卒業後の進路の選択肢を増やしていく必要がある。

- ・ 専門学科の選択肢をできるかぎり維持する
- ・ 当地域に多い普通科の特色化・魅力化を図る
- ・ 地域産業と結びついた学科やコースの設置を検討する
- ・ 多様な学習ニーズに対応できる総合学科の設置を検討する
- ・ 特色ある学科、特色ある部活動の設置により、県外や他地域からの入学者を増やす

(2) 多様な子どもたちへの対応について

- 学校現場では、特別な支援を必要とする子どもたちや外国につながりがある子どもたち、不登校の子どもたちが増えている。このような多様な子どもたちを受け入れられるよう、地域の高校のあり方を考えていきたい。
- 全日制高校においても、多様な生徒の受入れという視点がより求められるのではないかな。
- ◇ 中学校においても、不登校傾向や特別な支援を必要とする子どもたちが増えているが、その多くは高校で学び直し、卒業後に進学や就職をしたいと考えている。近年そうした子どもたちの多くが通信制高校に進学しているが、仲間と共に学習したり、支えてくれる教員がいたりするという環境も大切である。全日制高校においても多様な学習ニーズに応じていくという視点が必要となってきた。

- ◇ 高校においても、誰もが安心して学べる学校づくりに取り組んでほしい。
- ▽ 外国につながるのある子どもや、特別な支援を必要とする子ども、経済的に厳しい家庭の子どもなど、多様な子どもたちの選択肢が広がるような高校が、15年先にも津地域にあってほしい。

- ・ 特別な支援を必要とする子どもたちや外国につながるがある子どもたち、不登校の子どもたちなど、多様な子どもたちを受け入れる
- ・ 誰もが安心して学べる学校づくりを推進する
- ・ 通信制課程への進学が増加する中、全日制課程においても多様なニーズに応じていく

(3) 学校規模について

- ◇ 小規模校には、全ての職員が個々の生徒の抱える背景等を把握したり、丁寧に関わることができたりするなど、小規模校ならではのよさがある。一方で、多様な選択科目の開設、少人数・習熟度別指導の実施、社会・理科・芸術等における専門性の高い教員の配置、多様な進路への対応など、子どもたちの学びに関しては、学校規模があることのメリットは大きいと感じている。
- ◇ 学校規模が小さくなれば、部活動数が減ったり、部があっても単独チームで出場できなくなったりするので、小規模校のデメリットはよくわかる。一方で、小規模校だからこそできることも、ぜひアピールしてもらいたい。
- ▽ 進学ニーズに応える普通科高校については、多様な選択科目を開設し、専門性の高い教員を各教科に配置することが求められることから、参考資料にあるように、1学年8学級あることが望ましいというのは納得できる。
- ▽ 部活動の設置数や生徒の部活動への参加状況との相関から、部活動の活性化のためには1学年4学級以上が望ましい。また、生徒の安全性の確保に必要な顧問を配置するためにも一定規模があったほうがよい。
- 学校規模によらず一定の校務が存在することから、小規模化が進むと、一人ひとりの教員が子どもに向き合う時間の確保が難しくなる。また、生徒の興味・関心に応じた多くの選択科目を開設し、学校の特色化を進めるためにも、一定の学校規模が必要である。
- 法律で定められている教職員定数の標準にこだわることなく、県が独自に教員を配置することができれば、小規模校でもしっかりとした教育が展開できるのではないかと。

- ・ 多様な選択科目の開設、少人数・習熟度別指導の実施、社会・理科・芸術等における専門性の高い教員の配置、多様な進路への対応など、学校規模があることのメリットは大きい
- ・ 進学ニーズに応える普通科高校は1学年8学級あることが望ましい
- ・ 部活動の活性化や安全な活動のためには、一定規模が必要。(できれば1学年4学級以上)
- ・ 小規模校には、小規模校ならではのよさがある
- ・ さまざまな工夫によって、小規模校でもしっかりとした教育が展開できるのではないかと

(4) 学校の配置について

- ◇ 遠隔授業を導入することで、自宅から遠い高校に通わなくても、同じ授業を地元の高校で受けることができるようになれば、地元の高校への進学を希望する中学生が増え、高校の活性化にもつながるのではないかと。
- ▽ 津市は広大な面積を有することから、高校の配置を考える際には、進学者数や流入出の状況など、数だけに焦点をあてた議論ではいけない。
- ▽ 津地域の高校は、沿岸部の近鉄沿線に集中しており、内陸部の生徒は名張市や松阪市の高校へ進学している現状もあることから、高校はできるだけ広域に分散して設置されているほうがありがたい。
- ▽ 教職員定数の基準が現在のままならば、15年先を見据えると学校を減らすしかないと考ええる。こうした中であっても、子どもたちのためにいくつかの学校を再編して、地域のバランスを見ながら、どこかの場所に新しく建て直すということを考えてはどうか。
- 一定の学校規模が必要ということになると、どうしても人口が多いところに高校を配置することになる。過疎化が進む地域で、子育てがしにくい状況を助長することがないよう、各地域に教育機関を置くことも大切ではないか。
- 学校規模は大切な視点であるが、多様な子どもたちがいる中で、沿岸部ではなく自然豊かな場所で学びたいと考える子どもが選択できる学校もあるとよい。
- 少子化が進む山間部の高校で生徒数を確保するのは厳しいとは思いますが、白山高校は地域のシンボルであり、地域住民の定住につながる大切な教育機関である。また、白山高校がなくなると、高齢者にとっても大切な交通手段である名松線が廃止されるのではないかと危惧している。
- ◆ 学校規模も大切だが、多様な子どもたち全員が輝くためには、さまざまな特色を持った高校があるべきだという視点で議論を進めてほしい。また、沿岸部や山間部といった地域性のバランスも考慮する必要がある。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・遠隔授業の導入により、配置のデメリットを軽減し、高校の活性化を図る・沿岸部の近鉄沿線に集中している一方で、地域が広域にわたることもふまえて配置を検討する・再編にあわせて、どこかの場所に新しく建て直すことも検討する・各地域に教育機関を置くことも大切・白山高校は地域のシンボルであり、なくなると地域の交通手段がなくなること懸念される |
|---|

3 今後の協議の進め方

- 1 学年 3 学級以下の高校は統合についての協議も行うとされているが、統合の話を先行させるのではなく、津地域の高校の魅力を高めるにはどうしたらよいのかを、子ども目線で考えていくことが大切である。
- 子どもたちが将来を見通して主体的に進路を選択できるようにするために、地域の小中学生や高校生のニーズや思いを調査したうえで、協議を進める必要があるのではないかな。
- ◇ 当事者である津地域の高校生や中学生に対してアンケート調査を実施し、その意見が反映されるようにしてほしい。
- ◇ 公立志向の生徒や保護者も一定数いるので、中学校卒業生数が減少する中、高校の入学定員のあり方を検討する際には、公私比率も含めてしっかりと議論してもらいたい。
- ▽ 高校の授業料無償化の議論が進んでいることから、今後私立に対するニーズが高まることを想定して協議を行う必要がある。
- ▽ 今後の学級減を考えると、地域の中だけで議論するのは限界があることから、隣接地域の協議会の検討状況も考慮する必要がある。特に専門学科のあり方等については、県全体で考える必要があるのではないかな。
- ▽ 生徒数の減少を前提として学びと配置のあり方を議論するばかりでなく、人口減少対策の視点から、市外や県外からいかに生徒を集めるかという議論もあつてよい。
- ▽ 地域と連携した学びを推進するためには、当協議会において地域の方の意見を聞くことも必要ではないかな。
- 老朽化が進む校舎の建替えを考えるためにも、ある程度今後の方向性を決めておく必要がある。現在の 1 学年 4 7 学級から 3 9 学級程度にまで減少する令和 1 2 年度を 1 つのゴールとしてはどうか。
- 前回の協議会でも意見のあつたように、地域と連携した学びを推進するために地域の方の意見を聞く機会があるとよいのではないかな。
- 子どもたちに選ばれる高校となるためには、多様な学びの選択肢などのソフト面はもちろんのこと、エアコンや専門性の高い学びに必要な施設・設備などのハード面でも充実した学校にしていく必要があるのではないかな。
- 各高校では、学級減が進む中でどのように特色を出していくかを考え始めている。統合についての協議を急ぐのではなく、津地域の小中学生の学びの選択肢を残すために、どのように各校の特色を出していくかを議論することが大切である。
- 津地域の協議会は、他地域と比べると方向性を取りまとめるまでに少し時間的な余裕があるので、統合を含む学級減への対応だけを議論するのではなく、学校の魅力化に向けていろいろなアイデアを出していきたい。
- ◆ 産業構造が変化する中にあつても、農業・工業・商業などの専門学科は今後も残していく必要がある。今求められているのは、「高校生の 7 割が在籍する普通科を、探究や地域連携などを含め、今後どうしていくのか」であり、当協議会でも議論の中心に据えるべきである。
- ◆ 生徒減に対して、単なる学級減で対応するのではなく、地域で活躍する人材を育成するために専門学科の改編や総合学科の設置などの工夫を検討すべきである。また、県外に進学した生徒が地域に戻って活躍できるような地域づくりや学校づくりも大切である。
- ◆ 各学校における地域と連携した学びの実践報告を聞く中で、各学校において「地域」をどのように捉え、どのように学びに生かしていくのかについて、次回以降もさらに議論を深めていく必要があると感じている。

- ・津地域の高校の魅力を高めるにはどうしたらよいのかを、子ども目線で考える
- ・子どもたちが主体的に進路を選択できるよう、地域の小中学生や高校生のニーズや思いを調査する
- ・私立高校の授業料無償化の動向や影響を注視する
- ・隣接地域の協議会の検討状況も考慮する
- ・地域と連携した学びを推進するため、関係者の意見を聞く
- ・老朽化が進む校舎の建替えも考える
- ・ソフト面はもちろんのこと、施設・設備などのハード面でも充実した学校にしていく
- ・どのように各校の特色化、魅力化について議論する